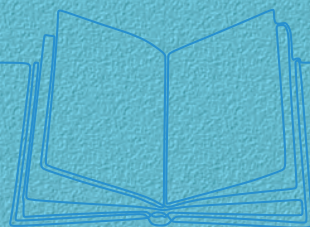


シンポジウム

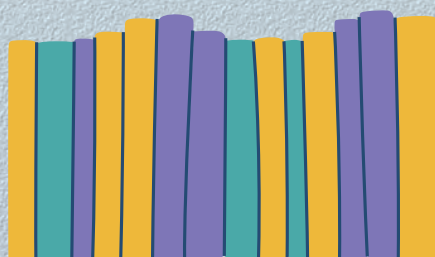
「自主夜間中学は何を目指すのか」



2025年
9月28日(日)

13時半～(開場13時)

会 場：きららの杜とちぎ蔵の街楽習館
1階 大交流室



とちぎ蔵の街自主夜間中学が開校(2024年10月)されて、約1年が経ちました。そして、いよいよ来年4月に県立の夜間中学が開校します。これを機にシンポジウムを企画しました。夜間中学を理解するためのクイズ、「栃木の今」についての報告、そして、札幌、名古屋、奈良の自主夜間中学関係者が、大切にしてきたこと、印象的な人物や出来事、これから活動する人へのメッセージを語り合います。

共 催：とちぎに夜間中学をつくり育てる会／
栃木市国際交流協会



しんぽじうむ
シンポジウム

「自主夜間中学は何を目指すのか」



にちじ ねん がつ にち にち ご ご じ ぶん かいじょう ご ご じ
日時：2025年9月28日（日） 午後1時30分（開場 午後1時）

ばしよ もり くら まちがくしゅうかん かい だいこうりゅうしつ
場所：きららの杜とちぎ蔵の街楽習館 1階 大交流室
とちぎけん とちぎし とちぎえき と ほ ぶん
（栃木県栃木市 栃木駅から徒歩20分）



ことば
はじめの言葉

ふくだえいじ とちぎしこくさいこうりゅうきょうかい じむきょくちよう
福田栄治（栃木市国際交流協会 事務局長）



くいず
クイズ

じしゅやかんちゅうがく
自主夜間中学ってなんだろう？



とちぎ いま
「栃木の今!」

ほうこくしゃ ささきかずたか やかんちゅうがく そだ かい じむきょくちよう
報告者：佐々木一隆（とちぎに夜間中学をつくり育てる会 事務局長）



しんぽじうむ
シンポジウム

じしゅやかんちゅうがく なに めざ
「自主夜間中学は何を目指すのか」

しかい まつしまえりこ きやくほんか ふりーらいたー
司会：松島恵利子（脚本家・フリーライター）

かとうかよ がいこくじんきょういくそうだんこーでいねーたー
加藤佳代（あーすぷらざ外国人教育相談コーディネーター）

とうだんしゃ くどうけいいち ほっかいどう やかんちゅうがく かい きょうどうだいひょう さっぽろえんゆうじゅくじしゅやかんちゅうがく
登壇者：工藤慶一（北海道に夜間中学をつくる会 共同代表、札幌遠友塾自主夜間中学）

ささやまえつこ あいちやかんちゅうがく かた かい だいひょう こうりつやかんちゅうがく せっちおよ じゅうじつ もと
笹山悦子（愛知夜間中学を語る会 代表、公立夜間中学の設置及び充実を求める

れんらくきょうぎかい きょうどうだいひょう
あいち連絡協議会 共同代表）

やまもとなおこ せいわ やかんちゅうがく かい じむきょくちよう ならけん やかんちゅうがくれんらくきょうぎかい だいひょう
山本直子（西和に夜間中学をつくる会 事務局長、奈良県夜間中学連絡協議会 代表）



ぐるーぷとーく
グループトーク

わたし
「あなたと私にできること」



こうりゅうかい
交流会

ご ご じ じ
（午後4時～5時）



きょう さい やかんちゅうがく そだ かい とちぎしこくさいこうりゅうきょうかい
共催：とちぎに夜間中学をつくり育てる会 / 栃木市国際交流協会



しゅさいしゃ 主催者より



たまき まつお やかんちゅうがく そだ かい だいひょう うつのみやだいがくめい いきょうじゅ
田巻松雄（とちぎに夜間中学をつくり育てる会 代表、宇都宮大学名誉教授）

とちぎけん ない こうりつやかんちゅうがく で き たいぼう かつどう つづ
栃木県内に公立夜間中学が出来ることを待望しながら活動を続けてきました。

ねん がつ とちぎけんりつ まな ゆめがくえん かしよう かいこう
2026年4月に、いよいよ「栃木県立とちぎ学びの夢学園(仮称)」が開校します。

き やかんちゅうがく まな じょうえいかい えいが ねんさくひん
これを機に、夜間中学を学ぶための上映会（映画「こんばんは」2003年作品）を

がつ にち ひ つづ こんかい しんぼじうむ じしゅやかんちゅうがく なに めざ
9月13日におこない、引き続き、今回のシンポジウム「自主夜間中学は何を目指すの

かいさい さっぽろ なごや なら じしゅやかんちゅうがくかんけいしゃ むか こうりつやかん
か」を開催します。札幌・名古屋・奈良の自主夜間中学関係者を迎えて、公立夜間

ちゅうがく じしゅやかんちゅうがく いぎ りょうしゃ れんけい かた かた あ
中学・自主夜間中学の意義や、両者の連携のあり方について語り合います。



どうだんしゃ 登壇者



くどうけい いち ほっかいどう やかんちゅうがく かいきょうどうだいひょう さっぽろえんゆうじゅくじしゅやかんちゅうがく
工藤慶一（北海道に夜間中学をつくる会共同代表、札幌遠友塾自主夜間中学）

あさひかわししゅしん じゅんびきかん ねん へ じぶきょくいん めい ひとり ねん さっぽろえんゆう
旭川市出身。準備期間3年を経て、事務局員3名の一人として、1990年に札幌遠友

じゅくじしゅやかんちゅうがく かいこう ねん ねん だいひょう つと
塾自主夜間中学を開校。1996年～2010年に代表を務める。

ねん ほっかいどう やかんちゅうがく かい かいせつ きょうどうだいひょう つ
2007年、北海道に夜間中学をつくる会を開設、共同代表に就く。

ねん さっぽろえんゆうじゅくじしゅやかんちゅうがく だい かいほっかいどうしんぶんしゃぶんかしよう じゅしやう
2019年、札幌遠友塾自主夜間中学が、第73回北海道新聞社文化賞を受賞。

しんぼじうむ きたい こうりつやかんちゅうがく きょうどうさぎよう なか じしゅやかんちゅうがく は やくわり
★シンポジウムへの期待 公立夜間中学との協働作業の中における、自主夜間中学の果たすべき役割を、
ひと ひと まじ なか あき よ と
人と人との交わりの中で明らかにし、世に問いたい。



ささやま えつこ あいちやかんちゅうがく かた かい だいひょう こうりつやかんちゅうがく せっちおよ じゅうじつ もと
笹山悦子（愛知夜間中学を語る会 代表、公立夜間中学の設置及び充実を求める

れんらくきょうぎかい きょうどうだいひょう
あいち連絡協議会 共同代表）

とうきやうといたばししゅしん ねん がつ しえんしゃ めい あいちやかんちゅうがく かた かい た あ
東京都板橋区出身。2020年5月、支援者3名で「愛知夜間中学を語る会」を立ち上

がつ なごやしきたく こそだ こうりゅうかい しゃかいふくしきょうぎかい さんか がくしゅうしゃ しえんしゃ
げ、7月、名古屋市北区「子育て交流会」（社会福祉協議会も参加）で学習者と支援者

つの がつ がくしゅうしゃ めい しえんしゃ めい かみいだみなみまち いこ いえ か まいしゅうどう
を募る。8月、学習者5名、支援者5名で、上飯田南町「憩いの家」を借り、毎週土曜

ご ご がくしゅうしえんかつどうかいし ねん がつ きやうぞう がくしゅうしゃ たいおう しえんじかん
午後に学習支援活動開始。2021年1月、急増する学習者へ対応するため、支援時間

えんちやうかいし こうりつやかんちゅうがくせっち しよめいかつどう てんかい がつこう ていきてき ちいきい べん と しえんしゃがくしゅうかい
延長開始とともに、公立夜間中学設置の署名活動を展開。3月以降、定期的に地域イベントや支援者学習会

かいさい ちいき きやうしつ かつどう やかんちゅうがっこう しゅうち はか い ご しよめいかつどうとう とお こうりつやかん
を開催、地域と教室をつなぐ活動で「夜間中学校」への周知を図る。以後、署名活動等を通して、公立夜間

ちゅうがく ひつようせい しえん じゅうじつ うった なごやしおよ あいちけん せっちけんとうかいぎ おぶざーばーさんか なごやし
中学の必要性と支援の充実を訴え、名古屋市及び愛知県の設置検討会議にオブザーバー参加。名古屋市

きた くしゃかいふくしきょうぎかい れんけい きょうどう まち いんかい さんか ねん がつ あいちけんない けんりつ
 北区社会福祉協議会と連携・協働する「街づくり委員会」に参加。2025年4月、愛知県内に、県立とよはし
 やかんちゅうがっこう な ご や しりつ ちゅうがっこう かいこう ちゅうがっこう がっこうひょうぎいん はいめい こみゆに ていさぽー
 ターとして、ボランティアの市民サポーター（ういず・ゆーサポーター）と教職員をつなぎ、学習者を包摂的に
 しえん ぶんとうちゅう
 支援するしくみ作りにかかわり奮闘中。

★シンポジウムへの期待 自主夜間中学の地域における役割を、名古屋市での実践をもとにご紹介し、
 「地域共生」の視点からの私たちの活動を知っていただきたいと思います。



やまもとなおこ せいわ やかんちゅうがく かい じむきょくちゅう ならけん やかんちゅうがくれんらくきょうぎかい だいひょう
 山本直子（西和に夜間中学をつくる会 事務局長、奈良県夜間中学連絡協議会 代表）

ねん き ねん ならけん いかるがちょう ぎかいぎいん つと
 1990年より3期12年、奈良県斑鳩町の議会議員を務める。

ねん がつ ざいにちがいこくじん せいかつしえんかつどうだんたい がいこくじんろうどうしゃ な ほしょうにんばんく
 1992年6月、在日外国人の生活支援活動団体「外国人労働者奈良保証人バンク」を
 けっせい。これまでに、多くの外国人労働者とその家族の生活支援にかかわり、1万人以上の
 みもとほしょうにん ひ う ねん がつ せいわ やかんちゅうがく かい けっせい
 身元保証人を引き受けている。1998年5月、「西和に夜間中学をつくる会」を結成し、
 じむきょくちゅう せいわ じしゅやかんちゅうがく うんえい ねん がつ だい かい なら
 事務局長として「西和自主夜間中学」の運営に携わる。2017年10月に、第22回奈良
 しんぶんぶん かしょう じしゅよう ねん がつ ならけん やかんちゅうがくれんらくきょうぎかい だいひょう せんしゅつ こんにち いたる
 新聞文化賞を受賞。2018年5月に、「奈良県夜間中学連絡協議会」の代表に選出され、今日に至る。

★シンポジウムへの期待 日本（にほん）のあちらこちらに、特色のある自主夜間中学（じしゅやかんちゅうがく）がいっぱい出来たら、いいなあ。



しかいたんどう
 司会担当



まつしまえりこ きやくほんか ふりーらいたー
 松島恵利子（脚本家・フリーライター）

かながわけんちがさきしざいじゅう あにめ こ きやくほん ねん わた しつびつちゅう
 神奈川県茅ヶ崎市在住。アニメ「ちびまる子ちゃん」の脚本を18年に渡り執筆中。
 よ ひと あにめしりーず にとべいなぞうものがたり にほん せかい
 『世のため人のためアニメシリーズ「新渡戸稲造物語～日本と世界をつないだ
 ぶしどう ちょしゃ じんけんきょういくえいぞう きやくほん じどうしょ どうきゅうせい がいこくじん たぶんか
 武士道の著者』ほか、人権教育映像の脚本や、児童書『同級生は外国人!?多文化
 きょうせい かながえよう だいち へいわ いし なかむらてつものがたり ちようぶん
 共生を考えよう』、『大地をうるおし平和につくした医師 中村哲物語』（いずれも汐文
 しゃ しつびつ てが
 社）などの執筆を手掛けています。



かとうかよ がいこくじんきょういくそうだんこーでいねーたー
 加藤佳代（あーすぷらざ外国人教育相談コーディネーター）

かながわけんよこはましざいじゅう ねん かながわけんりつちきゅうしめん ぶらざ あいしょう
 神奈川県横浜市在住。2006年から、神奈川県立地球市民かながわプラザ（愛称：あー
 がっこうきょういく しゃかいきょういく そうだん たいおう としよかん ほんす としよかん
 すぷらざ）で、学校教育・社会教育の相談に対応。図書館や本が好き。図書館がもっと

みぢか ばしょ ねん としょかんいん にほんご にほん
身近な場所になってほしくて、2023年に『図書館員のための「やさしい日本語」』（日本
としょかんきょうかい きょうちよ しゅっぱん
図書館協会）を共著で出版しました。

しんぽじうむ きたい ひと で あ まな ば つづ ようい おも
★シンポジウムへの期待 人と出会い、学びあう場をつくり、それを続けることは容易ではないと思います。
たずさ かたち かつどう げんせん なに じぞく ちえ ひんと まな
これまで携わってこられた方達の活動の源泉は何か、持続のための知恵とヒントを学びたいです。



あいであ も かえ しーと アイデアお持ち帰りシート

し きょうかん ぎもん ひび ことば た めも
🌱「はじめて知った!」「共感した」「疑問」「響いた言葉」、その他なんでもメモ 🌱



シンポジウム「自主夜間中学は何を目指すのか」

前 半

こんにちは。今日、司会を務めます加藤佳代と申します。今日は司会がもう一人いまして、松島恵利子さんです。よろしくお願いします。今日は2人とも、神奈川県の方から参りました。これからシンポジウム「自主夜間中学は何を目指すのか」を始めさせていただきます。まず、栃木市国際交流協会の事務局長をされている福田様にご挨拶をいただきます。



福田 栄治

皆さん、こんにちは。ただいまご紹介いただきました栃木市国際交流協会の事務局長をしております福田と申します。皆さん、立派な方がたくさんいらっしゃるし、なんか緊張しておりますけれども、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。本日は、夜間中学を学ぶイベントの2回目でございます。実は9月13日、映画「こんばんは」の上映会をしました。今日が2回目のイベントということです。「自主夜間中学は何を目指すのか」というテーマでのシンポジウムで、本当に多くの方に集まっていただきまして、心強く思っております。そして、今日は全国から素晴らしい先生方をお迎えしております。北海道からは工藤慶一さん、愛知県から笹山悦子さん。そして、奈良県から山本直子さん。お忙しい中、栃木まで足を運んでいただきまして、本当にありがとうございます。全国に誇れるシンポジウムになると私は確信をしております。

さて、私たちが目指しているのは、外国人のためだけではなくて、栃木市民の皆さんが暮らしやすい地域社会をつくること、と私は思っております。そのための一つの大切な手段の一つとしてこの自主夜間中学があり、我々の国際交流協会にとってとても大切な事業の一つというふうに思っております。こうした目的を実現するには、外国人の皆さん、そして日本人、もちろん私たち自身も、少しずつ変わることが必要なのかなというふうに思っています。本日のテーマは、先ほど申し上げましたが、「自主夜間中学はなにを目指すのか」ということでございます。全国から第一人者の皆さんに集まっていただきました。この時間を通して、私たちがどこを目指して、どんな未来を描いていけ



るのか、そしてどう学び、その学びを続けていくのか、皆さんと一緒に考える場になればというふうに願っております。短い挨拶ですけれども、どうぞ今日最後まで楽しんで、たくさんのヒントを持ち帰っていただければというふうに思います。簡単ですが、挨拶に代えさせていただきます。本日はよろしくお願いします。

加藤 佳代

福田様、どうもありがとうございました。ではここで、クイズの時間に入りたいと思います。「自主夜間中学って何なんだろう?」、わかっている方はもちろんよくわかっているんですけども、まだまだわからない方も数多いです。ですので、それをよくわかっていたきたいということで、今日の司会者の松島さんが自主夜間中学のクイズを作りました。クイズで質問するのは松島さん、そしてご回答いただくのは田巻松雄さんです。「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」の代表をしていらして、宇都宮大学の名誉教授でもいらっしゃいます。ではこの後はマイクを松島さんにお渡しします。お願いします。

自主夜間中学 なになにクイズ

自主夜間中学って なんだろう？



松島 恵利子

はい、今ご紹介にあずかりました自主夜間中学何々クイズというのを作ってまいりました。今日お見えになっている方々、そうそうたるメンバーを拝見しまして、何々クイズではなく、「釈迦に説法クイズ」でもよかったかなと思います。もう分かりきったようなことを質問して答えるという部分もあるんですが、改めて、こういう考え方もあるのかっていう、ちょっとした気づきがあったら嬉しいなと思います。なので、楽しんで生ぬるい目で見ていただけたらいいなと思います。よろしくお願いします。

では第1番、自主夜間中学って何のためにあるの？



田巻 松雄

「誰でも、いつからでも、いつまでも」学べる場という言い方をよくするんですが、「いろいろな人の学びたいという想いに応える場所」という言い方も、自主夜間中学の本来の姿を表しているんじゃないかなというふうに思いますので、「いろいろな人の学びたいという想いに応える場所」とお答えしたいと思います。

松島 恵利子

ということは、つまり、学びたいという気持ちがある人が、一人一人に合った勉強ができるってことですね。はい、ありがとうございます。では第2問。公立夜間中学と自主夜間中学ってどう違うんですか。

田巻 松雄

はい、いろいろな説明の仕方があるかと思うんですが、ここでは一般的な、制度的な説明になります。公立夜間中学の設置主体は自治体ですので、県立とか市立とか区立ということになります。月曜から金曜までの夜間に授業があります。昼間の中学校と同じ教科を学びます。それから、公立夜間中学を卒業すると、中学の卒業資格が取れて、高校受験も可能になります。



自主夜間中学は、週5日間通うのが難しい人や、中学の教科が学びたい人も含めて、いろいろな人の学びたいという想いを抱いている人が学べる場所なんですが、設置主体は市民となります。自主という言葉は、市民自らがつくり育てることを表しています。それから、おそらく公立夜間中学もそうだと思うんですが、学びに来た人たちの多様なニーズに寄り添って、その学習者が学びたいことを応援するような内容を目指すということになります。自分に必要な学びを選んでいくというのも一つの大きな特徴だと思います。

松島 恵利子

つまり、公立夜間中学、自主夜間中学が力を合わせると、多様な人の学びの可能性が広がって、みんなが笑顔になるってことでいいですか。はい、ありがとうございます。では、次の問題。自主夜間中学っていつから始まったんですか。



田巻 松雄

1970年代の奈良県というのが1つの正しい答えかなと思います。当時、奈良県にお住まいの方が大阪の公立夜間中学に通っていたという事実があります。奈良県に公立夜間中がなかったから、大阪まで通っていた。ところが、大阪府の方が財政的な理由で大阪府以外の地域から大阪の公立夜間中学への通学は認めないという方針に変えるんですね。それで学びたくても学べない人が奈良県の中に生まれてしまいます。その現実を見た人たちが、奈良県奈良市にも公立夜間中をぜひ作ってくれという運動を起こすんですが、なかなか県も市も動かない、そこで、公立夜間中学ができるまで市民が自主的に学びの場を作って学びたい人の思い応えようという運動が始まります。それが自主夜間中学の始まりで、夜食としてうどんを提供していたので、「うどん学校」という名前で知られるようになりました。その後、全国各地で学びたい人を支えようという人たちが出てきて、今、全国的に自主夜間中学の活動が始まっております。

松島 恵利子

自主夜間中学のルーツとして忘れられないのが、遠友夜学校。作った人が新渡戸稲造さん。5000円札で皆さんおなじみかと思いますが、明治から昭和にかけて活躍した教育者、思想家。世界のベストセラーとなった『武士道』を書いて、日本人の生き方や心を世界に伝えた人物です。新渡戸さんは、日本と世界をつないで平和と教育を大切にした人物です。明治時代の札幌にあった遠友夜学校。昼間に働いて普通の学校に通えない子どもや若者のために開かれ、読み書きや計算を教えました。

お金がなくても身分に関係なく、誰でも学べる場所として、教育の大切さと人を思いやる心を実践した取り組みでした。遠友夜学校閉校までの約50年間に、この学校で学んだ人たちは5000人を超えると言われていています。この後、シンポジウムでご登壇いただく工藤慶一先生は、1990年に札幌遠友塾自主夜間中学をお仲間と共に開校された方です。学びたい人に平等に教育の光を届けたいという新渡戸稲造の想いは今なお引き継がれています。工藤さんのお話を後ほど楽しみにお待ちください。

では、質問4問目です。公立夜間中学と自主夜間中学は全国にどれくらいあるんですか

田巻 松雄

2016年に教育機会確保法というのができて、今、全国的に夜間中学がたくさん作られているところです。今年4月の段階で、全国41都道府県・政令指定都市に62校の公立夜間中学があります。そしていよいよ栃木県で、来年の春に「栃木県立とちぎ学びの夢学園」が開校されます。

自主夜間中学については、自主夜間中学という名称を使いながら活動している団体もあれば、名古屋の「はじめの一步」とか、「えんぴつの会」とか、名称は違うんですが、いろんな人の学びたいという思いに応えているところも自主夜間中学ですので、合計すれば、全国でおそらく60～70ぐらいあ



るのではないかと。ここは少し推測もはいる数字ですが。栃木県内には宇都宮、宇都宮大学、小山、栃木の4カ所で自主夜間中学が活動しています。これはいずれも「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」が母体として開校した学びの場ということになります。

松島 恵利子

はい、ありがとうございます。第5問目、栃木自主夜間中学ではどんな人が学びに来ているんですか。

田巻 松雄

今日も午前中に活動がありました。小学生から70代までの年齢も多様で、国籍も多様な人たちが来ています。中学の教科の学びをする社会人、高校進学を目指す学齢超過の外国人、生活のための日本語を学ぶ外国人、学校の学習に困難を抱える中高生、それから勉強よりもいろんな人に出会って交流したいなというそういう気持ちで来られる人もいます。

松島 恵利子

本当にいろんな人たちが集まる場なんだということが言えると思います。つまり、背景は一人一人違うけれど、勉強したいという気持ちが皆さんのパスポートってことです。自主夜間中学は、地域全体で学び直しを支える場、学習を支える人、運営や企画を担う方、学習者を支える人、地域とつなげる人、もう本当にたくさんの方が関わって、運営ができていると思います。ご協力いただいている皆様には心より御礼申し上げます。

田巻 松雄

一緒に活動に参加していただいたら、こんなに嬉しいことはありません。今日の「自主夜間中学は何を目指すのか」という少し硬いテーマを設定したのは私ですが、本当にいろんな目指し方があると思いますので、一緒に楽しみながら考えていきたいと思っています。どうもありがとうございました。

加藤 佳代

松島さん、そして田巻先生、どうもありがとうございました。

ではこの次に、「栃木の今!」ということで報告をしていただきます。ご報告いただきますのは、「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」の事務局長をされている佐々木一隆さんです。



シンポジウム

「自主夜間中学は何を目指すのか」

「栃木の今！」 2025.9.28(日)

報告者：とちぎに夜間中学をつくり育てる会
事務局長 佐々木一隆

佐々木 一隆

ただいまご紹介いただきました「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」事務局長の佐々木一隆と申します。どうぞよろしくお願いいたします。先ほどの松島さんと田巻さんのやりとりは非常に分かりやすい内容でした。今日、私がお話する内容は、集合写真から始め



ます。「とちぎ蔵の街自主夜間中学」の開校記念の時の集合写真です。その後、公立夜間中学について少し詳しいお話をし、それから現在県内に4校ある自主夜間中学の意義と目標、楽しさ、課題ですね。こういったところをまとめたいと思います。

まず、この集合写真をご覧ください。みなさんは写っていますでしょうか、よく見てください。この写真は非常に素敵な写真だと私は思います。今から一年前の2024年の10月6日ですね。この蔵の街の自主夜間中学が発足した時の記念写真です。いろいろ考えさせられます。いろいろな人たちが一堂に会しています。さっき田巻さんもおっしゃったけれども、年齢や国籍を超えて、それから経歴等々も超えて、いろんな方々が集まっています。つながりを感じます。この集合写真をじっと見ても、多様性を強く感じます。

次に、追加資料1をご覧ください。栃木県立とちぎまなびの夢学園についての説明会が今年の7



月に2回開催されました。私は1回目に参加しました。その時の資料を参考にさせていただいて、私なりに手短かにまとめたものがこれです。



補足資料1 栃木県立とちぎ学びの夢学園

入学希望者説明会資料 参考（2025年7月 栃木県教育委員会 義務教育課）

概要：1～3年 各学年35人まで募集、義務教育の内容を勉強したい15歳以上、授業（40分）1日4回 17:10～20:30、中学校（9教科など）の学習内容を勉強 [一人一人の目標に合わせて、5つのコースを提供]

○5コースと入学から卒業までの年次進行（例） **個別面談を通して決定**

	1年生	2年生	3年生
チャレンジ （中3程度）			A, B, C, D, E
ジャンプ （中2程度）		A, D	E
ステップ （中1程度）	A	EE	注1 A～E: 各生徒を表す
ホップ （小学校＋基礎的学習）	EE		注2 EE: Eが同一学年で
にほんご （日本語基礎＋各教科）		B	当該コースを2年継続

基本的には1年生から3年生、標準学修年数というのは3年間ですが、2年生、3年生から始めることが出来、3年を超えて学ぶことも出来ます。各学年35人まで募集、義務教育の内容を勉強したい15歳以上の方が学べます。それから授業は40分、1日4コマで、17時10分から20時30分まで。公立中学校ですので9教科プラスアルファの学習内容を勉強するということで、一人一人の目標に合わせて5つのコースを提供していただけるということで、非常に魅力的であると思います。



5つのコースと、入学から卒業までの年次進行をまとめてみました。にほんご(日本語基礎+各教科)、ホップ(小学校+基礎的学習)、ステップ(中1程度)、ジャンプ(中2程度)、チャレンジ(中3程度)の5コースがあります。標準的に1年生から入学する方であればAさんですね。このAさんは、1年生でステップ、2年でジャンプ、そして3年でチャレンジコースを取るということで、3年間で卒業するという場合です。Bさんは、2年生から入学してにほんごコースを取る、これも可能なんです。「日本語基礎+各教科」を一年間やって、3年生になりチャレンジコースを終えて卒業・進学する、こういうこともできるということです。EEが1年生のホップと2年生のステップのところに並んでますね。これは、例えば1年生でEさんはホップを二年間、2年生でステップを二年間やることを意味します。さらに3年生に進むと、(5年目に)ジャンプ、(6年目に)チャレンジをやって卒業となります。こうしたコースと年次進行が説明会で示されました。今後は、個別面談を通してどのコースを取るかを決定していくことになります。

それで今度はちょっと戻り、自主夜間中学についてですが、私はおやま自主夜間中学については直接関わっていないので、説明は控えて、他の3つについてお話ししたいと思います。宇都宮校は最も早く開校し、宇都宮市東生涯学習センターで毎週日曜日の夜、金曜日の昼に(清原地区市民センターで)開講されています。多様な学び教室は宇都宮大学、それから一番下のところがこちらのとちぎ蔵の街自主夜間中学です。

この後は、自主夜間中学の意義と目標等に進みます。「自主夜間中学は何を目指すのか」という今回のシンポジウムのテーマですが、例えば、蔵の街校の振り返りのミーティングでもテーマとして取り上げられました。いろんな人々の学びたいという思いに応える場であり、無料で、誰でも、いつでも、いつまでもというのがキャッチフレーズですね。公立夜間中学には在籍期限がありますが、自主夜間中学には制限がなく自由に学べます。それから学習者にもパートナーないし応援スタッフにも「多様な学び」、「交流」、「居場所」という3つの場があるという点もあります。パートナーというのは宇都宮校で呼んでいるスタッフの名称で、多様な学び教室やこちら蔵の街校では最近単にスタッフという呼び方をよく耳にします。さらに、栃木県立とちぎ学びの夢学園との連携から見る存在意義ですね。公立と自主との交流、学習者さんの交流もあるし、応援とか支援する方々との交流というのもあります。それから夢学園進学への応援ですね。在校時や卒業後の応援も出来ると思います。目標については青字で書きましたが、「自主夜間中学は、限られた時間での活動でありますけれども、なくてはならない場として存在し続ける」。これは、田巻さんが1週間ぐらい前のミーティングの席でお話しされた内容を受けています。

自主夜間中学の重要な要素というのは、学習、喜び、楽しさ、共感、連帯などで、一言で言うと楽しく学べる場を作っていくことかなというふうに思うんです。そこで、自主夜間中学の楽しさに焦点を当ててみました。少し重なるかもしれませんが、多様な学習者が集う多様な学びの場、これ自体、ある意味楽しさを持つものですし、交流の場、居場所でもあるということもお話ししました。そこに学びの本質とか原点があるというふうに私は思っています。あと、学習者に寄り添いながら応援し、引



き出す。支援とか教えるのではなくて、応援するスタンスが大事ですね。その結果、学習者から良いところを引き出す。そういうスタンスでやっていると、「楽しい」、「わかった」とかそういうところが出てきて楽しいんだと思います。それは、いくいくは生きる力につながっていくところがあると思います。

先ほどご紹介した3つの学び場ですが、宇都宮校が一番大きな組織です。東アジア、東南アジア、南アジア、アフリカ、アメリカなど、もちろん日本の方もいます。小学生、中高生、大学生、大学院生、社会人、いろんな方が学んでいるということです。それから外国人の方にせよ、日本人の方にせよ、親子での参加もあるのですが、これもなかなかいいんですよ。この宇都宮校が一番包括的だと思います。学習内容も、日本語、教科、試験対策、対話、不登校児童生徒の学び直しなど、包括的です。それから「パートナーの集い」というのがあり、初級日本語学習支援や不登校問題について研修する機会もあります。

多様な学び教室は、宇都宮校同様、多様な学習者の応援をしています。学習者とスタッフによる「参加型とんかつ交流会」も実施しました。これは、買い出しから始めて、とんかつを作る過程を共有するものです。2回実施しましたが、実に楽しいものでした。

蔵の街校については、小学生、中高生、社会人のクラスに分けて、応援しています。朝と振り返りの全体ミーティングでは、毎回、歌を歌う、紙芝居を楽しむなどの交流をしています。毎回そういう場があるというのはすごく素晴らしいことです。栃木市国際交流協会のホームページに毎回開催報告を載せていますので、ご紹介しておきます。

課題については、一言で言うのは難しいのですが、系統的学習の難しさもありますし、学習者と目標を立てて継続的に応援することも必要になってきます。学習者とスタッフのマッチングや定着度、場所の問題、あと公立夜間中学とどう連携するかというのも考えていかなければならないと思います。ご清聴ありがとうございました。

加藤 佳代

どうもありがとうございました。今、「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」のお話を含めて伺いましたが、確か2021年3月に「つくり育てる会」ができたんですよね。それからの4年半という歳月、市民の方たちが活動してきたことが下地となって、2026年4月に県立の公立夜間中学が新しくできる、それに向けての大きな力になっていると思います。

今日この会場には、栃木県教育委員会で夜間中学をご担当の江田敦夫さんが来てくださっています。今日、いただいたチラシが皆様のお手元にもありますので、またよくご覧ください。



「自主夜間中学は何を目指すのか」

加藤 佳代

では次に、今日のシンポジウム「自主夜間中学は何を目指すのか」を始めたいと思います。まずは、ご登壇の方をご紹介いたします。お一人は、工藤慶一さん。「北海道に夜間中学をつくる会」の共同代表をしていらっしゃいます。そして、札幌遠友塾自主夜間中学の活動を、もう36年にわたって続けてこられました。もうお一方は、笹山悦子さん。「愛知夜間中学を語る会」の代表をしていらっしゃいます。そして、「公立夜間中学の設置及び充実を求めるあいち連絡協議会」の共同代表もしていらっしゃいます。お三方目が山本直子さん。「西和に夜間中学を作る会」の事務局長をなさっています。そして、「奈良県夜間中学連絡協議会」の代表もされています。

話していただくこと



活動を続ける中で
大切にしてきたこと



これまで出会った
印象的な人物や出来事



これから活動する人へ
ぜひ伝えたいこと





今日は本当に全国的にも非常によく知られた方々、「夜間中学に関してはこの人!」という非常に贅沢なメンバーがここに揃っていらっしゃいます。ただ、せっかく遠方から来ていただいたんですけれども、今日話していただくことは3点ほどに絞ってお願いをしております。まずは、活動をする中で大切にしてきたこと、これまで出会った印象的な人物や出来事、そしてこれから活動する人へぜひ伝えたいこと、できればそれらに絞って、お一人様、15分ほどでお話しただけです。どうぞよろしくお願いいたします。では、最初に工藤慶一様からお願いいたします。



工藤 慶一 「3つの物語」

物語①：一人の学習者の存在を大切にするため、12月に行われる“クリスマス忘年会”という行事名を“クラス発表忘年会”に変更。学習者の相互尊重が運営を変える。

物語②：決して人前で話すことのなかった広島被爆体験を、遠友塾卒業文集に初めて書き、その後語り部となる。今年の北海道に夜間中学をつくる総会後に「被爆者として名のり出るまで」と題した講演を行う。涙を流しながら語り合う同期卒業の方との交わりに感動。

物語③：コロナ禍で全員留年の決断。毎月の電話でスタッフと受講生の関係性が深まり、再開後の心のつながりが強固に。

皆さん、工藤です。よろしくお願いいたします。今まで大切にしてきたこと、印象的な人と出来事、これから活動する人へのメッセージについて、個々にバラバラにすることができなくて、白と黒の絵の具を足すと灰色になって、灰色を白と黒に分けることはできないという思いから、今日15分のお話の時間ですので、遠友塾のクラスで生起した3つの実際に起きた物語をお伝えしたいと思います。

なお、札幌遠友塾は4クラス構成です。クラス単位で動きます。1年、2年、3年については、普通の学校と同じ形ですが、ただ、スタッフはほぼ生徒さんと同じぐらいの数で支援に回ります。例えば、1クラス15人であれば15人のスタッフがいます。それからもう一つ、その1、2、3年のほかにじっくりクラスというクラスがあって、これはほぼ1対1、あるいはスタッフ2対学習者1でやるクラスです。この4クラス構成ですので、札幌遠友塾の場合には、クラス毎の動きが顕著に出てきます。このことについて、私が今まで経験したことをお話します。

最初に紹介したいのは、トルコから来られた瀬戸メラルさんという方のお話です。

2010年に入学してきました。ご主人が札幌の果樹園を経営している方でした。日本語の問題と、



お子さんが小学生になるということもあって、どうしても、自分も学びたいということで入ってこられました。そこで生じた問題です。このクラスは20名くらいのクラスで、とっても特徴的なクラスでした。まずですね、それまで札幌遠友塾は1990年の開校の時から12月にクラス発表やクリスマス忘年会をやってきました。。クラスごとに出し物を出して、それでみんなで楽しむ。食事をしながら。最初の頃はアルコールも出てたんです。中学生ですが(笑い)。ところが、コロナでだめになりました。今はクラス単位でやるようになっていきます。その時に、クリスマスという言葉が問題になりました。メラルさんはトルコ出身です。キリスト教関係の言葉を使う行事については参加できないということが伝えられました。そしたらですね、クラスのみんながなんて言ったか。「メラルが出ないんだったら私たちも出ないよ」と、こう来たんですよ。すごいですよ。夜間中学の生徒さんって、こういう生まれながらの国際感覚を持っているんですね。困難な事態に立ち入った人が同僚にいた時に守るんです。そうしてですね、様々な人にも相談をした上で、とうとう2009年まで使っていたクリスマス忘年会という言葉廃止して、今は、クラス発表忘年会という言葉に変えました。これは生徒さんの声に私たちが従った。私たちが生徒さんから学んだということになりますね。。

実はこのクラスですね、まだあったんです。旦那さんが病気で入院して果樹園が立ち行かなくなって、メラルさんが遠友塾に来れなくなったんです。そしたらクラスのみんなが「それだったら私たち行って手伝う」ということになって、当時は20名の生徒さんと17、8名のスタッフがいたのですが、その半分以上が果樹園に応援に入りました。この時の2010年には、北海道夜間中学交流会を釧路で開催するということで、釧路にバス2台で行くことになっていました。そしたらみんながメラルを連れて行きたいから頑張るんだってということで、果樹園にみんなで応援に入ったわけです。メラルさんはその時に初めて日本に来てよかったと感じたということで涙を流していました。私は同じクラスでしたので、「よく頑張った」とカマルと握手したら、みんながそれを見て拍手してくれました。このクラスは、ガチッと固まって、とっても面白いクラスでした。結構、ずばずば言うおばあちゃんがいたんですよ。この人の言うことには誰もさからえませんでした。クラス発表忘年会でですね、ある男性を女装させてしまったこともありました。

このクラスはとうとう、卒業時に自分たちのクラスの旗を作りました。大きさはこのスクリーン画面ぐらいあったんです。黄色、いや、橙色だったかな。それに赤く札幌遠友塾と書いた。第21期生でした。

つい先日の9月5日、6日に、札幌駅から大通駅までの地下歩行空間で、初めて札幌遠友塾の資料展示会と説明会を行いました。その時に、ある卒業生がその旗を持ってきたんですよ。ある卒業生が「慶一いるか」「慶一いるか」と言って、旗を持ってきた。テーブルにそれを備えたら、目立って本当に助かりました。そんなことがあったんですね。

次に2番目、実は北海道には被爆者がたくさんいるんです。今、私が把握している範囲で遠友塾には今まで3名の被爆者がいました。1990年に入学してきた一期生の中にある被爆者がいました。7月か8月の末だったかな、その時の帰りのホームルームで、私がちょうど司会をしていたので



すが、「ところで皆さん、終戦の日、皆さんどこでどうしてたんですか」って聞いたんです。一人ずつ聞いていきました。そしたら、ある方が手を挙げて、「広島で被爆をして病院にいました」と言ったんです。司会する立場としては、もう絶句ですよ。もう言葉が出ない。その方から頂いたのが、この『被爆者の証言』という1988年(昭和63)年に北海道被団協が出した本です。

北海道被団協が組織的に活動を開始したのは昭和35年の6月ですが、ここに会長花田圭介(札幌)と書かれています。実はこの花田圭介さんは北大の教授でした。私の恩師の一人で西洋哲学の先生で、実は学徒動員で広島で被爆をしていたのです。遠友塾を立ち上げるときに、北大の先生たちにも協力を依頼したら、花田先生から電話があって、「工藤君、これ大丈夫なのかね」と言われたんです。「一人でもいいから、来てよかったっていう人がいたらやりたい」と言ったら、様々な話をしたうえで、花田先生が「じゃあ、工藤君やりなさい」と言ってくれました。

この本をくれた一期生は沖百合子さんという方ですが、この話を札幌の北海学園大で開催された2008年の社会教育全国集会で私が話した時に、そこに遠友塾の生徒さんが一人来てたんです。金子廣子さんという方です。その方が一年生の時、その沖百合子さんの話を紹介したら急に「私もです」と手を挙げたんです。5歳の時、被爆をしましたと。転々とするわけですよ。学校に行ったら「うつるから、そばに寄るな」ということを言われる。この金子さんが、その後、東北の大震災の原子力発電所の爆発等々で被爆をした人がかなり出てた姿を見て、そして色々な方の話もあって、それまで一切その話をしたことがないにもかかわらず、前に出ようと思ったそうです。それで、札幌で語り部として被団協の活動に参加するようになりました。日本被団協が2024年にノーベル平和賞を受賞したときに、受賞式に来ないかという話があったんですけど、体調の理由から行かなかったそうです。それで、今年の6月13日、北海道に夜間中学をつくる会の総会の後に、初めて、この金子廣子さんに、「私が被爆者として名のりできるまで」という半世を語っていただきました。その時に、金本さんのそばにいたのは、やっぱり同期に遠友塾を卒業した方です。久々に対面したお二人は泣いていましたね。被爆体験の継承。沈黙を破り語り部となるまでの歩みを夜間中学が支えた。やっぱり夜間中学っていいと思いましたよ。本当にそういうことを思いました。

実は私の友人が名古屋におりまして、彼は被爆二世です。長崎でお母さんが被爆をしました。学生時代の時に、彼から、実は母親が被爆者で、二世として原爆症の症状が出るか実は心配していると聞きました。今でも彼とは付き合いをしております。そんななか、被爆体験の継承に役立てようと、2世の会員らが2022年、被爆体験集「原爆、忘れまじ」を復刻させています。もともと被爆40年を機に、第1～7集で計100人以上の証言を収めたのですが、発行から30年以上が経ち、散逸していたので、2世と3世ら約10人で編集委員会をつくり、クラウドファンディングで費用を募って復元、新たな証言を加えて第8集も作った。その活動に私も協力をいたしました。そういうことがありました。

最後に言いたいのはコロナの時です。コロナの時は本当に2、3年間どうにもならない状態でした。2020年度は、だいたい年間90回ぐらいの授業日があるのが3分の1しかできなかったため、



2020年度は「卒業はなし、全員留年」として同じ授業をもう一回最初からやり直すという決断をしました。様々な困難が降りかかってきましたが、一つ良いこともありました。例えば半年間授業できないわけですけど、クラスごとに、クラスのみんなに、例えば20名いたら20名をスタッフ3人で分けて手分けして、毎月電話入れるんですね。私も7、8名の方を担当して、電話しました。毎月電話してるとね、いろんな世間話するんですよ。そしたらね、なんて言ったらいいのかな。離れがたくなるんですよ、気持ちがわかって。そうするとね、コロナが明けて一回クラスが集まって授業を始めた時に、今までの関係と違うんですよ。はるかに関係が深いんですよ。その時に関係が深くなった3人が映画『新渡戸の夢～学ぶことは生きる証～』に出てきたあの3人の受講生なんです。だから映画の撮影OKだったんですよ。そういうつながりがないと、映画の撮影さえできないわけですね。そんなことがありました。だから私にとって、コロナで大変な目にあったけれども、しかし、こういう良い面もあったわけです。例えば、それ以降、私たちは「クラス通信」というのを出版してまだに5年間続けているんです。欠席者通信のクラス通信。これはもうずっとその結果で続いています。これで私の札幌遠友塾という自主夜間中学の経験の一コマをお伝えできたと思います。ありがとうございました。

加藤 佳代

ありがとうございました。非常に印象的な3つの話を聞かせていただきました。工藤さん、これからの人に向けて伝えたいメッセージなどがもしあれば、お教えいただけますでしょうか。

工藤 慶一

困難に陥った人を前にした時に、遠友塾の受講生さんが示してくれたように、必ずその人の立場に立って行動してほしいということです。これは受講生さんを見習ってほしいという意味で言っています。

加藤 佳代

なるほど。わかりました。工藤さん、ありがとうございました。

では、笹山悦子様にお話しいただきます。

笹山 悦子「地域共生社会を支えるために」

はじめまして!というか、以前も宇都宮大学に呼んでいただいて、お話をさせていただいたことがあるので、「ただいま!」って言った方がいいですかね。その節はお世話になりました。私の話なんですけども、到底15分ではまとまりきれません。皆さんのお手元の方に資料と、それから本日皆さんにお伝えしたいことってということで、裏表の一枚のA4のプリントを用意してきました。15分では無理なので、来週10月6日(月)にまたZoomで話をしてくださいというお話がありましたので、そこで詳しいこと



をお伝えしようと思います。

ざっとご覧いただきながら、先ほどの3つの論点ですね、大切にしてきたこと、その人と出来事、これから活動する人へのメッセージなんていうのを簡単にまとめたいと思います。

私は自主夜間中学っていうのはどういう意味を持つかということ、私たちの「はじめの一步」教室（以下、一步教室）では支援者・サポーターと学びのニーズを抱えている人は学習者



というふうに、一応立場をはっきりさせています。これなんでかということ、私たちのこの場においては「共に学び、共に生きる」、場面によって、今まで支援を受けていた学習者さんが、実は支援者になりうるという、そういう場面もある。どうしてそういうことを私が考えたかっていうと、私たちの教室には上は83歳、それから下はゼロ歳児、学びに来る人がいっぱいいるんです。名古屋の北区の大曽根という駅を中心にした北の部分と南の部分と分かれて、今2つ教室を持っていて、細々と展開していくはずだったんですが、今、学習者がものすごく増えてしまって、300人超えてるんですよ。一堂に会してみんなで一緒に写真を撮ることは到底無理ですし、毎週のようにこの人新しい人ですって常連さんが連れてくるんですね。

一步教室は、名古屋市の集合住宅がいっぱい立ち並んでるところの一角にあるんですが、本当は集合住宅でいっぱい人が住んでいるはずなのに、一人一人が孤独なんです。このことに気がついたのが、ニラジュ君というネパールの男の子の話でした。「先生、僕のうち、上飯田南の団地だけど、僕の隣に誰が住んでるのかわかんないんだけど、この間白い菊の花が一本置いてあった。これどういう意味?」と聞いてきたから、「それはね、隣の人がお亡くなりになった」ということを話しました。その話聞いてちょっとショックを受けていました。名古屋のこの大曽根界隈の集合住宅でも孤独な高齢者と日本語のわからない外国人という情報弱者が多い、そういう町になっちゃってるんだ。やっぱり私たちの自主夜間中学というのが地域から孤立したものであってはいけないと強く思いました。私たちは「皆さん居場所だから来て一緒に交流しましょう」と呼びかけて、来てくださって楽しかったねっていうようなことは積み重ねてやっていけるんですけども、でもその方たちが地域の自分の住宅に戻った時に、それがその周りの人たちと共に生きていくというようなことに波及していくかっていうと、そういうことがない。やっぱり私たちの場所と地域が切れちゃう。これちょっとまずいよねって思います。私はもともと夜間定時制高校の教員だったので、文科省の学習支援っていう考え方はあるんだけど、厚生労働省が包括的に人を支援していく重層支援を重視し、社会福祉協議会あたりですごく取り組まれてるんだけど、これを自主夜間中学の取り組みの中に、やっぱり生かせ



ないかなっていうふうに強く思ったんです。

隣のおばちゃんと隣のおばあちゃん、おじいちゃんと挨拶もできないような、そういう住民関係はよくない。そういうことで、それを取っ払うような、いろんな地域の人たちとの交流を進めることになりました。で、そのニラジュ君は、そういうおじいちゃんおばあちゃんのことをすごく気にかけてくれる子になってくれたんです。

一方でみねこさんという方が、一步教室が始まった時からずっと関わってくださったんですが、彼女は読み書きがすごく苦手なんです。兄弟がすごくたくさんいて、お父さんは障害者で、昭和36年の伊勢湾台風の時には、下半身不随のお父さんを背負って伊勢湾大風の嵐の中を道路の真ん中を歩いてたっていう話を、子どもたちにしてくれるんですよ。「なんで道路の真ん中歩いてたの。お父さん抱えて大変でしょ。だから、支えるものが必要だから、端っこの方が良かったんじゃない?」って言ってた子どもたちが次の言葉でびっくりするんですよ。みね子さんは足で地面を探りながら、マンホールがないところを探して歩いてた。下からわーっと水が噴き上げてくるでしょう。一步間違えば、マンホールの中にお父さんもとも自分が吸い込まれる。そういうことちゃんとわかってたから、足で探しながら慎重に歩いてた。そういう話を防災講座の時に、みねこさんが講師になって、子供たちや地域の若い人たちに話してくれる。伊勢湾台風はひどかったよ、と映像で見たって、そういう感覚はわかんないですね、

それからみねこさんは、名古屋城が燃えた時の話もしてくれるんですよ。私が住んでた時、お城があっちの方で燃えてたってね、そういう話してくれる。学習者さんは普段は学習者さんなんだけども、大事な大事な私たちの先生、そういうやり取りができるのが私たちの自主夜間中学。そういうことで、みなこさんも、それからニラジュも、みんな同じ地域に生きる人だよなっていうことで、私

WAM助成金団体ですが ご寄付大歓迎 賛助会員も直接支援会員も 大募集中！

「はじめの一步教室」を
もっと知りたい方は

高橋龍介著

「はじめの一步教室やってるよ！」
(同時代社) をぜひどうぞ！！





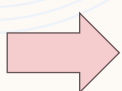
たちは「共に学び、共に生きる」ことを考えて活動してきました。

細かいことを言うと、本当にいろいろなものすごいドラマがあるんですけども、もしよろしかったら、そういったことをまとめた本『「はじめの一步教室」やってるよ! 名古屋自主夜間中学奮闘記』を持ってきました。これは毎日新聞の元記者さんがまとめてくださいました。

これからの人たちには、ぜひ、自分たちだけでなんとかしようっていうふうには思わずに、私たちは弱い存在なんだ、一步外に出れば、いろんなできないことがいっぱいあると思ってほしい。私たちの教室には、日本語が読めない人だとか、読み書きできない高齢者なんかもういらっしゃるんですけども、でも彼らは実はITには強いとか。それから、農業をやってこられた方もいる。男という漢字は「田の力」と書く。力が必要だからだよね。男は「田の力」なんですよ。その一方で、女はくノ一、そういう話を伝えたりして楽しくやるんですけども、とにかくいろんな場面で学習者と支援者が入れ替わるっていうことを常に考えています。で、私たちは一人一人弱いんだ。だから「助けて」って言える関係を作る。連携と協働は、みんなと仲良くするだけじゃないんですね。仲良くしたら、良かったで終わっちゃうんだけど、そうじゃなくて、なぜこの人がここにいるんだろう。なぜ私たちがこの人たちと共に生きることになったんだろうか、と考えていく。

これ、愛知県、全国の在留外国人数ですけども、とにかく激増しています。今日、栃木に来て、駅からここまで来る間に、ネパールの方や、東南アジアの方だなと思うような方にたくさんお会いしました。栃木も同じだな。名古屋も同じです。これが、今、国勢調査やってる最中ですが、2020年の国勢調査の結果で、愛知県のデータです。愛知県は、工藤さんの北海道に次いで、全国二番目に義務教育未修了者が多い。実はこのデータが県や名古屋市に公立夜間中学を作らせる後押しになった。議員さんとか、行政の担当者は、この結果見てないんですもん。名古屋市に10,586人いるんです

愛知県立夜間中学校：とよはし・とよた・こまき・いちのみや 名古屋市立夜間中学校：なごやか夜間中学校



- ・民間支援団体の代表が「コミュニティサポーター（学校評議員）」として入る
- ・一步教室のメンバーを中心とする市民サポーター約30名が授業支援に入るなど連携・協働を進めている
- ・生徒さんたちへのキャリア支援の取り組みにもかかわっている





よ。政令市の中では第3位。そういうことも知らない。だから行政の皆さんにはやっぱり現場に出てきていただいて、こういうデータを元にして、自分の目できちっと現実を見ていただきたいなと思うんです。

で、愛知県ではなんと一気に公立夜間中学が5校できることになりました。名古屋市に今年の春、なごやか中学校というところがありました。私はそのなごやか中学校の学校評議員を拝命し、昨日、なごやか中学校の開校式典に呼ばれて、教育長と共に座って名前を呼ばれました「愛知夜間中学を語る会、笹山様」、教育長と一緒にね、すごいですね。民間支援団体でNPOも法人格を持っていない団体なんですけれども。

来年は豊田、小牧、一宮に県立夜間中学が一気にできて愛知県は5校できることになります。でも足りない。さっきの地図を見てもらうとわかるように山の方と海の方がね、全然足りないんです。ここを何とかしたいと思ってんですけど、ここに関していろいろ案があるので10月6日あたりにお話ししたいと思います。

私たちの教室です。工藤さんところはクラス制ですすごいですね。私たちのところは、カオスなんです。もう、ぐちゃぐちゃでごちゃ混ぜ。でも、これがすごく楽しいんです。みんな、宿題持ってくるんですよ。で、持ってきて、自分のとこだけやったら、はい、先生遊びたい!本当に遊ばせてあげたいんだけど、遊ばせる道具もないしどうやって遊ばせていいかわかんないって言ったら、ちゃんと地域に助けてくれる人がいてくれる。この真ん中にいてピースやってる人、エプロンかけている人は、おもちゃ工場に勤めてた人なので格安で譲り受けて遊び方を教えてくださるんです。

この子は高校生なのに、小学生と一緒に遊んでます。あと向こうに、英語がすごく上手なフィリピンの子がいるんですが、その子が英語を使って社会貢献したいって言うから、じゃあ英語教室やるっ

ぐちゃまぜ・カオスから 生まれるエネルギー



キスマット君のダンス教室



初代 親子英会話教室



て言ったらやってくれた。堂々としてますよ。ものすごく発音が綺麗。ここにUFJ銀行の日本人のボランティアさんが来てるんですけど、ボランティアの僕も参加していいですかと、生徒さんになって、英会話を教えてもらってます。これが地域の人たちとの防災訓練ですね。防災訓練やるのは外国人のためじゃないんです。実は日本人のためで、自分の身の回りで言葉が通じない人がどれだけいるかということを可視化するためにやってました。役所の防災課の人も呼んできました。ムスリムの人もいますね。媒介語は日本語です。

あと、母語はすごく大事なんです。「日本に来たんだから、日本語を覚える」だけじゃダメなんですね。まず、母語をしっかりして、第二言語として、日本語を勉強してもらう。これからの文科省もそういう考え方にシフトしていきますので、学校での日本語教育のあり方も変わってくると思います。はい。それから本当にすごく楽しそうに「あやとり」を教えているのか、教えてもらっているのかわかんないんですけど、楽しんでます。それから、こちらが中国から来た方なんですけど、特別な配慮が必要な方なのに、ずっと30年間ほったらかしのままで教室につながって、ここでみんなと一緒に勉強しています。この前来たばかりのナイジェリアの女の子とすごい仲良しで、日本語で喋って楽しくやっています。可愛いんですよ、みんなもう本当にね。

一歩教室はカオスですね。私たちは本当にカオスから生まれるエネルギーっていうのをとても大事にしたい。これこそね、多様性のメリット。多様性っていうのは、一人一人大事にされないと、花開かない。だからこれをすごく大事にして、毎回玄関だけごっちゃまぜのぐちゃぐちゃになってるんですけど、これが私のところの教室の良いところですよ。

まあ、目指していることは。いろんな人を応援したいんだけど、実はサポートする私たちは弱いんです。私たちの教室だけでは少しのことしかできない。だから、地域のいろんな人たちと仲良くしながら、その人たちのお力をほんのちょっとお借りして連携協働する。これが私たちのやり方です。共に生きるために共に学ぶ。もう300人もいるので、2つだけではもう足りなくて、今もう3つ目とか、あと巡回指導みたいなのを考えてみようかなって。一歩教室だけではもう無理なので、地域の人に助けてくださいって言ったら、近くに住んでる人が夕方5時から6時までだったら助けてあげられるっていうので、そこのお家のリビングを開放して教室を作ってくれた。あと多文化共生をすごく大事にしてくださっている地域のNPOの拠点が近所にあるんですけど、そこに教室を立ち上げてくださり、みんなが少しずつ分け合って楽しんでるっていうか、助けていただいているっていう形です。NHKにも紹介されたので、学習者はもう本当にうなぎのぼりです。実は、断らないはずだったんだけど、今満員で、もうちょっと待っててねっていう感じです。

夜間中学のことが良く分かる映画があります。工藤さんが紹介していた『新渡戸の夢』の最後で私も映ってるんです。よかったら、『新渡戸の夢』を是非ご覧ください。ということで以上です。

加藤 佳代

ありがとうございました。「助けて」と言える関係づくりはとても重要、本当にそうですよね。あと、



カオスから生まれるエネルギーって本当に凄いと思います。

では、次に山本直子様からご報告いただきます。

山本 直子 「カタツムリのような歩み」

皆さんこんにちは。ただいまご紹介をいただきました、奈良県から参りました山本直子と申します。私は奈良県の大阪府に割と近い地域、西和地域というところがあるんですけども、そこで西和自主夜間中学を開校して、現在まで事務局長として活動しております。西和というのは、「西に平和の和」と書きます。奈良県は大和という言葉を使うので、和という言葉を使っているようです。



それでは発表をさせていただきます。皆様のお手元に、このようなニュースをお配りしています。私の話を聞きながら、これを見ていただけると幸いです。これまで出会った印象的な人物や出来事、それから活動が続ける中で大切にしてきたこと、そしてこれから活動する人へぜひ伝えたいこと、ちょっと順番は逆になることがあるかと思いますが、これに特化してお話をさせていただきますと思います。

1996年から1997年にかけて、私は奈良県で当時高校の先生をされていて、そして、奈良県夜間中学連絡協議会の代表をされていた米田先生という方に出会いました。私はこれまでの自分の活動の中でも米田先生とは出会ってきたのですが、1996年から97年にかけての出会いは私にとっては劇的なものでした。当時、私は1990年から奈良県生駒郡斑鳩町というところで、ここもかなり大阪に近いところで人口3万人余りの町で町議会議員を3期12年務めさせていただきました。1990年、奈良県には画期的なことが今となっては起こっています。1990年当時、奈良県にはペルーやブラジルやボリビアの外国人労働者とその家族の人たちが、日本の太平洋ベルト地帯では働けずに、奈良県という地方都市に流入をしてきました。そして奈良県に唯一一つあった人材派遣会社、協和産業というのですが、そこに雇用されていました。協和産業の事務所は私の住んでいる斑鳩町にありました。そして当時どういことが起こっていたかという、多くの外国人労働者やその家族の方々が言葉もわからない日本の小さな斑鳩町というところで生活をしながら、近くの工場へ派遣をされていくという状態が起こっていました。そこでは、派遣切りがあったりとか、パスポートを返してもらえなかったりとか、自分が移動しようにも、当時は外国人登録者証というのがあったんですが、今は在留カードですけども、その外国人登録者証を企業に没収されていて、返してと言っても返してもらえなかったりとか、また、会社で怪我をしても何の保証もなく追い返されたりとか、そういうことが起こってしまし



た。私は当時、斑鳩町の議員をしていましたが、今何が私の町、斑鳩町に起こっているのかも十分わからないまま、彼らの支援、生活支援に奔走をしていました。本当に朝から夜まで、その方々と一緒に生活を共にしながら、支援をするということをずっと続けていました。そんなことをしながら、やっとということが落ち着いてきたかなと思っていた時に、今度は次のステップが私の目の前に起こってくるようになりました。彼ら外国人労働者の人たちが、自分の生活が落ち着くと、今度は本国から配偶者を呼び寄せる、家族を呼び寄せる、お子たちを呼び寄せるということが起こってきました。で、その子どもたちが日本の小学校や中学校、そして保育園に通うということが起こってきました。私はもう何が起こっているのか全くわからないままに、彼らを一人ずつ連れながら小学校に行き、彼らの明日からの就学のことについて、学校の先生にお願いをするという事態に直面することになりました。

今なら日本語の初期指導の指導員の方が配置されるという状況がありますが、当時はそんなことは一切なくて、制度的には何の保証もされることなく、彼らは小学校に通うことになりました。私は何をやったかという、彼らの言葉がわかる、少し前に日本に来た同じお国の人たちを地域で探し当て、地域で協力者を求め、その人たちと一緒に教室で勉強するということを行ってきました。そんなことをやっていた最中、当時奈良県には3つの公立夜間中学があったのですが、米田先生の方から、「直子さん、その公立の夜間中学の手が届かない範囲、夜間中学の空白地域である西和地域に自主夜間中学を作りませんか」と言われました。お話を伺うと、米田先生は奈良県夜間中学連絡協議会の増設運動の一環としてそういうことをされていて、そして奈良県の空白地域である西和地域に夜間中学を作りませんかということで来られました。

私たちの地域、奈良県には、今もお話ししましたが、3つの公立の夜間中学がすでにあります。そして、その3つの公立の夜間中学は、すべて自主夜間中学から出発し、そして市民の力で公立化を勝ち取った。そういう経緯があります。そういう力を持った奈良県夜間中学連絡協議会が後押しバックアップをされる中で、すでに奈良県の山間部大淀町というところには吉野自主夜間中学が1996年にオープンしています。そして私はそういう呼びかけを米田先生から1996年から97年にかけて伺い、そして一年間の準備期間を経て1998年の5月に「西和に夜間中学をつくる会」という母体を作り上げ、西和自主夜間中学の設立にこぎつけました。なので、これまで出会った印象的な人物や出来事っていうのは、今申し上げたことになります。

自主夜間中学を作るには、人、金、場所、この3つがとても大切なものになります。奈良県夜間中学連絡協議会と私たちの準備団体で、人、金、場所を準備しました。次に、活動をする中で何を大切にしてきたのかということなのですが、このような活動をする中で、私たちはこの5月で開校29年を迎えることになります。開校29年を迎えるまでには、本当にいろんな出来事がありました。西和自主夜間中学は地域の中で小さいけれども確実にあり続ける学校として、今後とも頑張っていきたいと思います。そして私たちのスタイルは、来るもの拒まず、去るもの追わず、そしていつでも生徒さん、スタッフさん、ウェルカムです。そしてその時にできる”最高のおもてなし”を私たちはしたいと思います。最高のおもてなしというのは、1対1のマンツーマンを確保することです。何らかの理由



があって義務教育を受けることが今までにできないまま今日に至った方や、不登校の皆さん、そして外国籍の方で日本語を勉強する機会をずっと企業や社会によって奪われた人たちがいらっしゃると思います。この三者の方々に、できるだけマンツーマンでの学習の場を提供したいと思ってこれまで頑張ってきました。これが私たちの西和自主夜中の“最高のおもてなし”だと思っています。

そして最後にこれから活動する人へぜひ伝えたいということですが、実は言えずにずっと黙っていることがあります。それは世代交代です。西和自主夜間中学を開校したのは1998年ですから、もう30年近くこの活動に携わっています。黙ってきましたが、世代交代は切実な悩みです。なので、それを心にじっと秘めながら私たちが次の世代に伝えたいことは、私たちの活動はあくまでも学習者さんの目標に寄り添いながら、伴走型の支援をずっと続けることです。それは決して私たちから勉強を教えますよという一方通行ではありません。必ずそれが支援者さんの側に帰ってくることがあるということです。それを次の世代の方にぜひ伝えたいというふうに思っています。

そして西和自主夜間中学の歩みはカタツムリのような歩みです。前にしか進めない。ゆっくり進む。何かあった時にはじっと貝殻を閉じる。そんなこともありながら西和自主夜間中学は一步ずつ前に進みたいと思っています。以上で西和自主夜中のお話を終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

加藤 佳代

今、世代交代ということこれから考えていらっしゃるということで、あくまでも学習者の目標に寄り添いながら、伴走型支援を続けてほしい、それを次世代へ強く伝えたいということですね。ありがとうございました。

これまでお三方から大事なことをたくさん伺ってきました。ではここで、主催者の田巻さんの方からこのお三方へのご感想などをよろしくお願いいたします。

田巻 松雄

とちぎ蔵の街自主夜間中学を2024年10月に開校して一年が経とうとしていて、また、半年後には公立夜間中学ができるというタイミングで何かやりたいなって思った時に、これまでお世話になったという言い方はあまりに一般的すぎるんですけども、いつも特に気にしていたというか、札幌と名古屋と奈良の話が聞きたく、お願いしたところ、本日のみ皆さん参加可能ということで、開催することが出来ました。改めて工藤さん、笹山さん、山本さんの話が聞けて、蔵の街校の課題もたくさん見えました。自分は年齢的には世代交代を考えるような年齢なのかもしれないんですけど、始めてまだ4年なので、もう少し前に進んでいきたいと思っています。

札幌遠友塾のことを知り始めた時に一番驚いたことを思い出しました。それは、なんと釧路から遠友塾に通っていた学習者がいたことでした。釧路から札幌まで約500キロメートル。そのような遠方から通ってくる学習者が来ると、スタッフは真剣にならざるを得ない。そんな距離をかけてきた



人に。失望させるようなこともあっていけないので、本当に緊張して支援したというお話だったと思います。ただ、距離の長短はどうであれ、すべての人に楽しんで満足してもらえるか、絶えず問われる課題だと思います。

工藤さんのこれまでのお話の記録ファイルもいくつか作ってますので、ぜひそれをご覧いただいて、工藤節と一緒に勉強したいと思います。これまで4年間活動してきて、めげそうになった時に工藤さんにいろいろ励ましていただいて、なんとか来れたんですけど、一番励ましになった言葉は、遠友塾の最初の10年はスタッフ対策だった、という言葉でした。こちらはまだ4年。上手くいかないことがあるのは当たり前!の精神で行きたいと思います。

笹山さんからは、本当にパワフルさと勢いを感じます。そして、特に、サポートが必要な様々な事情を抱えた人を地域で応援する、地域の課題を幅広く共有し、解決に向けて様々な関係者と連携・協働して行く話が印象的でした。自主夜間中学の中での楽しさにおぼれず、地域に開かれた活動をめざしていきたいと思います。

山本さんには、2022年12月にオンライン研修会でお話しいただいたのですが、「私の先生、私の生徒」という関係を大事にして来たと言われたことが印象的でした。ただそれは、1対1をベースにしながらも、そこで閉じるのではなく、「私の生徒たち、私の先生たち」といろんな関係づくりを広げていくことも大事というお話でした。今日のお話では、学習者の目標に寄り添いながら。伴走型の支援をずっと続けること、カタツムリのように歩んできたこと、今後もカタツムリのように歩いていくこと、がとても印象的でした。

加藤 佳代

どうもありがとうございました。

それでは、一旦ここで休憩に入りまして、その後、グループトークに入りたいと思います。前半の部でお話くださった工藤様、笹山様、山本様に今一度拍手をお願いいたします。

..... 後 半

加藤 佳代

では後半は、みんなでグループトークです。まず自己紹介しあって、それから、今日、はじめて知ったこと、胸に響いた言葉、なぜ?どうして?と思ったこと、そして、自分もやってみたい!できるかも?と思ったこと、それをお手元の付箋に書いて、卓上の模造紙にどんどん貼っていきましょう。

グループトーク

加藤佳代

ではこれから、みんなで共有、そして質問タイムに移ります。各グループで話し合ったことをみんなの前で発表してもらいます。時間の関係ですべてのグループに発表してもらうことは難しいかも



しません。その点をご容赦ください。

では、最初、第二グループに発表していただきます。模造紙を前へ持ってきて、発表してください。よろしくお願いします。

第二グループ

私たち第二グループです。様々な意見が出てました。初めて知ったことは、自主夜間中学の偉大さですね。存在の偉大さ。改めて、みんなそう実感したと話しました。それから、名古屋のお話を聞いて、地域ぐるみで取り組まれているということを初めて知った。素晴らしい取り組みだなという話をいたしました。次に、胸に響いた言葉、「共に学び、共に生きる」。学習者も支援者も、共に学んで共に生きるんだっていう、この力強い言葉が胸に響いたねっていう話をしました。

それから、支援をするってことは、自分が支援をするという立場ではなくて、相手の立場に立って、その人の気持ちになって、寄り添うんだっていうことが、とても重要だねっていうことを話しました。次に、質問になるんですけども、まず一つが、皆さん1対1でスタッフが学習者に寄り添っているというお話だったんですけども、どのようにこのスタッフの拡大をしているのでしょうか。2つ目が財源ですね。300人の学習者がいらっしゃるという話を聞いたんですけども、場所であったり、おもちゃであったり、教材であったり、財源はどのようにされているのか。そして、特に笹山さんにお伺いしたいのですが、地域ぐるみというところで、社会福祉協議会さんなんかとの関係も含め、もう少し詳しくお話を伺いたいというところです。

最後に、私たち栃木市民ですね、地域の活動を地域ぐるみで拡大していくことが我々にもできるんじゃないかというようなことを話し合いました。スタッフの拡大の方法、財源、そして社会福祉協議会さんなどと協力して運営していく方法など、これまでのご経験をお話しいただけたらと思います。

加藤 佳代

ありがとうございます。第二グループの皆さんはどのようなメンバー構成だったのでしょうか。教えてください。

第二グループ

「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」の副代表と事務局長、とちぎ蔵の街自主夜間中学のスタッフなど、超ベテランの方たちで、世代交代ということで一番若い私が発表させていただきました。どうもありがとうございました。

第五グループ

第五グループはみんな若手!なので、全員出動します。まず、自主夜間中学の歴史が本当にすごく



古いということを知りました。特に札幌遠友塾の起源が新渡戸稲造さんであったことを全く知らなかったことだったので、歴史がすごく古く長く続いていて、ニーズがそれだけずっとあって、非常に大事な存在であった、居場所であったんだなということ、今もそうなんですけど、初めて知りました。あと地域で高齢者や外国人の方が地域で孤立しているということを知ったという意見がありました。2番については、「はじめの一步教室」で、「共に学び、共に生きる」という言葉が胸に響きました。果樹園のピンチの話の時なんですけど、お友達がピンチの時にはみんなが助けに行くという気持ちに大変深く感銘を覚えました。学習者さんも大切な先生であり、学習者さんからも学んでいくというお話に感銘を受けました。

困っている人を目の前にした時、寄り添い、伴奏者として一緒に関わっていくことの大切さを教えていただきました。それと、カオスから生まれるエネルギーということで、カオスの良さ、多様性の良さというものが心に入りました。3番目に聞いてみたいこと。これは多分多くの人も共通してるかなと思うのですが、支援者のエネルギーはどこから生まれてきているのか、すごくお聞きしたいところです。そしてカオス、多様性という中でどうやってまとめて進むのか、ぜひコツをお聞きしたいと思います。お願いします。

それでは最後ですが、やってみたいこと、たくさん出ました。みんなでお料理を一緒に食べよう、みんなで何か楽しいこと共有しようってということ、それとか他の宗教と無理なく共存する、無理なくそんなことができれば良いなっていう。あと、周囲の人の困っている方に気づいたり、声をかけたり、私たち一人じゃないってということなので、みんな気を使って使いながら、でもあまり肩に力入れなくて、周りの人と一緒に生きていく、そんなことをやってみたいと。

あと、来年公立夜間中学が出来ますが、生徒さんたちと交流できる機会があったら良いと思います。高校受検の時だけではなくて、在校時の支援とか卒業後の支援とか。引き続き関わっていったら良いなって。あと、西和自主夜間中学の話で出てきたカタツムリの話は、とても共感しました。ゆっくり進む、時には止まる、さらに時に閉じこめることも良いかなと思いました。大変ありがとうございました。

加藤 佳代

ありがとうございました。ちなみに第五グループの皆さんは、若手とおっしゃいましたが、どういったメンバーだったんでしょうか。

第五グループ

私は栃木市役所の学校教育課というところで勤務をしています。主に外国人の児童生徒、子どもたちの就学や日本語指導のサポート等を業務として担当していますので、非常に興味を持って参加させていただきました。「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」の役員をさせていただいています。また、とちぎ蔵の街栃木自主夜間中学と宇都宮大学多様な学び教室、とちぎ自主夜間中学宇都宮校の方で、スタッフとして楽しみに参加させていただいています。私は宇都宮校でパートナーしてお



ります。今日も夜活動がありまして、今から行きますんで、これから失礼します。「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」の役員であり、宇都宮校を立ち上げた時から活動させていただいています。現在、多様の学び教室、そしてとちぎ蔵の街自主夜間中学でも活動をしています。

加藤 佳代

ありがとうございました。

次に、あちらの第三グループに、外国出身の学習者さんがおられます。二人でお話を聞いてくださっていました。すみませんが前に出てきて、どのような声がお二人の中から上がったかを一言でもご紹介いただけましたでしょうか。

第三グループ

皆さん、こんにちは。私は名前はカンナンです。私はインドから来ました。今は私は大平住んでいます。私、仕事は日立で働いています。ありがとうございました。

私もとちぎ蔵の街自主夜間中学で、学習さんのサポートをしています。カンナンさんは今日午前中も学習に来ていて、休んだことないです。お仕事が本当に忙しいにもかかわらず、一年前から必ず参加して、熱心に学習しています。この前の映画「こんばんは」の上映会にも参加して、本当に何かを学びたいと熱心です。今日も理解ができる、できないということではなくて、もう参加するっていうことで、今日は残ってくださいました。本当に感謝しています。今日はちょっとディスカッションには参加できなかったのですが、これまでどんな勉強してきたかみたいな話を二人でちょっとしてきました。



加藤 佳代

ありがとうございました。

今日は本当に積極的にグループセッションをしてくださった他のグループの皆さん、ちょっと発表の機会がなくて大変申し訳ないのですが、机の模造紙はそのままにしておいてくださいね。これは後で必ず登壇者の方にも見ていただきますので、それはそのままにぜひ残しておいてください。

では、さきほど各グループから質問が出ました。まず、第2グループからは、「1対1のスタッフの確保はどうしてるんですか。財源はどのようにしていますか。地域との連携、社会福祉協議会との関わりは?」という質問です。



笹山 悦子

はい、財源ですね。財源は本当に貧乏で、寄付、会員の寄付で賄っています。一口3000円で、皆さんのお手元にも緑色のパンフレットを配らせていただきました。今、賛同者が80名、一口の人がほとんどですが、中には企業さんでのUFJ銀行さんが2年だけだけど50万ぐらいいいよって言ってくださってありがたく頂戴してます。あとはWAMという医療福祉財団という行政の企業さんが作ったファンドから年間50万いただいています。でも、足りませんね。会場費、光熱費、いろいろ入れたら、もうとんでもなく赤字に近いんですけど、あとは細かな助成金、赤い羽根共同募金とか、社会福祉協議会さんの助成金応募とか、そういうのを細々とやってます。だから事務方がすごく大変だと思います。

工藤 慶一

財源の問題の前提としてですね、自主夜間中学は財源で不正を働いたり、何かトラブルがあったら絶対ダメだということです。そんなことは絶対あり得ない。やってはいけないことなんです。例えば代表者がですね、私も14年代表やってましたけど、交通事故を起こしてもダメなんです。そこまでの責任ってというのがあるんですね。会場を借りるのにお金が必要とするということで、合意に達したのが、全国に賛助会員を募ろうということで、目標金額は60万でした。結果的にそれ以上の金額が集まりました。そのお金をもとに、市民会館の会場予約をいたしました。その後、会員が現在は約200名、毎年一口2000円です。それで寄付をしてくださっているのと、それからどういうわけか、開校十数年経って、札幌弁護士会の人権擁護委員会から第4回人権賞というのを初めていただいて、初めてお金をいただいた。そうすると不思議なもんでね。後から後から、いろんなところから寄付が届く。最終的には、社会貢献支援財団という財団があって、あそこから2回、今まで100万ずついただいただきました。不思議なもんですね。花開くときは一斉に開くんですね。それまでは全然なかったんです。それから、友人の中で、とっても高額な寄付をしてくれる方がいます。それから、遠友塾に「私が死んだ後、お金をあげてね」と遺言に残して亡くなった方もいて、そのお金を一つの基金として定期預金にしてやっているということで、現在のところ、心配がないところまで来ております。むしろ自分の体の方の心配です。

山本 直子

お二方の言葉、すごく身に詰まりながら聞いていました。西和自主夜間中学は、お二方の組織に比べると、もっとコンパクトなので、でもとても貧乏です。何が収入のベースかという「西和に夜間中学をつくる会」という会員さんから年間一口1000円の会費を集めさせていただいています。銀行振り込みではなかなか集まらないので、年1回、総会を必ず開催して、皆さんに総会の案内状を送らせていただいて、来ていただいた時に良かったなと思えるような、いろんなイベントとか、ちょっとした出し物とかいうのを企画して、そしてその時にお金をいただくようにしています。会員さんの中には沢山いただいている方もあります。私のところには西和地域7町があるんですけども、7町か



ら年間10万円、これは必ず入ってきます。しかし1町、1万4千円です。市役所に勤めてらっしゃる方がおいでなので分かっていただけたと思いますが、市からお金をもらうというのはどんだけ大変なことか、私はその1万4千円を年間いただくのにとっても苦勞をしています。そして私に講演をしてねとか、ちょっとお話をしてねとかいう形で、呼びがかかることがあって、そういうところの謝礼金とかを収入にさせていただいています。

それから先ほど1対1はどうやってということがあったんですけども、うちは原則マンツーマンです。マンツーマンが担保できない時には2人の生徒さん、3人の生徒さんを一人で見ることがあります。ただし、そういうことができるスタッフさんは限られていますので、そういうことができるスタッフがいらっしゃる時はそうしています。1対1をこれまで約30年にわたってキープをしてきましたが、私が関わりのあるところは全て網羅して、いろんなところでスタッフさんを募集して教えていただく方を担保しているというそんな状態です。ありがとうございます。

工藤 慶一

笹山さんがおっしゃっていた「共に生きる」ということ、これは札幌遠友塾のある意味では信念としてのスローガンであります。で、一つだけコツミたいのがあるんですよ。多文化共生(たぶんかきょうせい)と音読みしますよね。音読みすると意味がよくわからんのですよ。具体的に。共生(きょうせい)ではなくて、共に生きる(ともにいきる)とすると、はっと気がつくんですよ。共に生き、共に学ぶ(ともにいき ともにまなぶ)。

これ、宗教上では仏教で共生(きょうせい)の思想っていうらしいです。ですから、何かちょっと抽象的にわかんないなと思ったら、その読み方を訓読みにしたらわかる場合があります。これ、ちょっとしたことです。

加藤 佳代

ありがとうございます。さきほど「カオスとか多様性を、どうまとめるのですか?」という質問も出たのですが、これは、「まとめる」ではなくて、「共に生きている」という見方をしていけば、まとめるではない、多様性との共存ができるのかなと、今感じました。これについて何かヒントとかありましたら教えてください。

笹山 悦子

教えるなんていう、そんな上から目線ではなくて、本当に日々悪戦苦闘した中で、もう悟りの境地というんですかね、さきほど田巻先生ともお話ししたんですけども、肩の力入れて、こうあれねばならないとか、こうしなきゃならないっていうのを全部放り出して、もうあるがままだから。一步教室の玄関のあの靴、あれが私たちの教室を表している。教室というよりは、とにかくなんか1週間あったことをしゃべりに行きたいとか、1週間前にあった困ったことを相談しに行きたいとか、とにかくあ



りとあらゆることが起こるんです。

だからまとめない。まとめたらダメですよ。もう一つの価値観で縛られない。十人いれば十人の価値観があるわけだから、それぞれがそうなんだっていうふうに、右から左へ流しながら、これをなんか対応できる人いますかって声をかけると、地域ではこれやろうかっていうふうに応じてくださる方が、できたっていうか、作ったんですよ。

今、一步教室にロシア人の本当に生活が困っちゃった。孤立しちゃった親子が来ています。中学校のケースワーカーから、SOSが入りました。名古屋市は多文化共生推進プランという立派なものを持ってるんですけども、なかなか拡充と充実まで踏み込めていない。通訳もすごくバカ高い。離婚しちゃったロシア人のお母さんは。言葉困っちゃってて、生きるのが精一杯。その時に誰か助けてって学校から来た時に、じゃあちょっと相談乗ろうかっていうので、ロシア語が少しできるスタッフがカウンセリングみたいなことに入ったんですね。いろいろ複雑なことがあるから、多文化共生推進課でロシア語の通訳をつけてもらおうって言ったら、お金がかかる。お金かかってもらいますって言ったら、それがパレスチナ人になって。パレスチナです。国同士がそういう関係であっても、下々のものは困ってるんだから大丈夫だろうって言ったんだけど、もうお手上げですよ。お母さんのお守り。この後どうするかっていうのを全国に今発信してます。ロシア人の孤立し合った一般市民をどうやって支援するのか。

私たちはやっぱり地域を信頼する。そうすると学校が私たちが信頼してくれる。あるいは高齢者施設の方が信頼してくれる。あるいは、特別支援学校、放課後デイサービスの人たちが信頼してくれる。そういう形で顔がつながって、ある時社会福祉協議会さんにこの人たちつないだから1回子育て交流会やってみないっていうふうに持ちかけてみたら子育て交流会が出来て、もう5年も続けています。年に3回4回ぐらいなんですけどね。ケースワーカーが入り、みんながなんか困ったものを持ち寄って、誰かその場で解決できる人いますかと呼びかける、そういう会議を自然と持つことができた。で、これがバネになって、今、名古屋市北区の社会福祉協議会は、第五次まちづくり推進計画を立ち上げていて、なんと自主夜間中学がその委員として入っている。一緒にまちづくりやりましょうって、今その段階なんですよ。楽しいんですよ。

先ほど、この建物の1階の廊下見てたら、地図があって、高校生がここ危ないとかね、ここオムライスがおいしいとか、付箋貼ってましたよね。あれを北区にも持っていきたいなと思ってるんですけど、素敵でしょうね。皆さんのところもやれますよ。困ったらこの指とまれじゃないけど、誰か手あげてっていうのを繰り返し発信していく。言葉悪いけど丸投げっていうか、困りごとを受け止めて次へ送るプラットフォーム化。プラットフォームっていうとカッコいいけど、右から来たものを一旦受け止めてから次へ送るみたいな。そういう中でもう一回戻ってくることあるんですけど、でもその中で、みんなが関心を持ってるまちづくりになっていく。すごく楽しいです。やってみましょう。カンナンさんも参加できることがあると思いますよ。



加藤 佳代

あるがまま、そしてまとめない。まとめたらダメ、広げる。これもすごく大事なことだと思いました。ありがとうございます。

さて、グループから出た最後の質問として、支援者3人それぞれにお伺いしたいんですが、支援者のエネルギーはどこから来てるんですか?という質問です。それをちょっとお一人ずつからお願いいたします。

工藤 慶一

エネルギーの源は3つあります。一つは、中学校3年生の時の私の体験です。卒業間近の2月に、あるクラスの仲間から、高校の数学の参考書をもらって、当時、私のあだ名は丸坊主だったもんで「やかん」だったのですが、「やかん、この参考書を使って世の中を良くしてくれ」というやつがいたんです。そいつのあだ名を伝助というんですけど、彼は樺太から引き上げてきて、いわゆるスラム街を形成した地域から帰ってきたやつで、高校は行きませんでした。その時に発した言葉、伝助は俺に何かを託したんだと思ったんですよ。じゃあ何をどうしたらいいのかということが常に頭の中にあって、それが気になって、それが大学に入った時に、なんか、私、大学辞めるような気がして仕方がない。結局、就職していたら、俺、伝助の言ったこと忘れてしまうのではないかという気持ちがあった。結局、自分で逃げ出すんじゃないかっていう危険性があったので、大学3年生の時に退学をいたしました。ですから、伝助の言葉っていうのは大きかった。

それから若い時の経験の中で、「退かない覚悟」を身につけたと思っています。それから3番目は、私はガソリンスタンドに入って10年ぐらい仕事をずっと現場でやってきたんですけど、そこで得られた職場の体験が非常に大きかった。老若男女。お客さんは大学教授からヤクザまで、もうとにかくたくさんの人が来て、対応しなければならぬということの中で身につけたことが本当に大きかった。この3つの財産で40歳の時に遠友塾を立ち上げることができた。それを今、もうずっとやっています。やり始めたときの気持ちと今の気持ちは全く変わっていません。

加藤 佳代

ありがとうございます。この「退かない覚悟」は、田巻さんが以前、迷った時や行き詰った時に、ものすごい励ましになった言葉でしたよね。工藤さんありがとうございます。では笹山様、お願いいたします。

笹山 悦子

はい、私のエネルギーは亡くなった母なんです。母もね、読み書きできなかった。浅草の上空襲で家を丸ごと焼かれちゃって、その後、一家で茨城県に疎開するんですけど、子供の頃に聞いた母の体験がものすごく悲惨でした。でもね、嫌な子供だったんですよ。そういう母をね、恥ずかしい



と思ってた。本当にね、今考えると殴ってやりたいと思うんだけど、でも多分それが普通の子供の心だったかなと思って。それをずっと抱えてたんだけど、ある時、母が「あんたは私の誇りだよ」って言うてくれた、あれがやっぱり大きかった。「本当にあなたのやってることは応援してる、何やってるかわからんけど」、心置きなく幸せにあのように言うてもらったので、それでスッキリしている部分もあるかなと思います。

それとね、私、長いこと愛知県立の通信制高校に勤めていて、10年ぐらいね、それで今、夜間定時制で非常勤講師再任用やってるんですけども、そこの生徒さんたちから学ぶことがすごくたくさんありました。不登校の人たちや病気を抱えて一生懸命頑張っておられる方、経済的に苦しい方が定時制通信制に来るんですけども、一步教室を立ち上げるきっかけになったのが、やっぱりそういった方たちの想いに応えたいという気持ちでした。その子たちがやむを得ず学校を辞めちゃった後、地域に戻ったときに誰がこの子たちの面倒を見てくれるのか、学校から1回切れちゃったら、もう私たち手出しできないんですよ。妊娠して先生ごめんって言って、なんで女の子が学校辞めなきゃいけないのとかと思ったんだけど、ジェンダーの問題も関わってますよね。。だけど、彼女が学校辞めちゃった時に、誰か地域で世話してくれる人いるかなってすごく心配。だから、地域で立ち上げた時も、そういう助けてくれる人たち、社会リソースですよ、ソーシャルネットワークをしっかりとって、何かあった時に生徒さんを丸ごと支援できるような体制づくりをしていかなかったら、この後不登校の数は35万人どころじゃないと思います。それ考えたら、やっぱり公立夜間中学や自主夜間中学との連携を通して、昼間の学校に通ってもらいたいというのが最終的な目標です。

私たちの活動はすごく楽しいんですね。正直、疲れますよ。そして、どこまでやれるかなとかと思うんだけど、でも、今度ね、ポルトガルから私たちの話を聞きに来てくれるんですよ。夏休みには韓国から大学の先生と行政の人が視察に来たんです。数ある夜間中学の中で私たちを選んでくれてありがとうって感じでね。ポルトガルにも発信したいですね。

加藤 佳代

お母さまの、「あなたのことは応援してる。何やってるかわからんけど」というお言葉、大きいですね。ありがとうございました。

では、山本様、お願いいたします。

山本 直子

私のエネルギーの源なんですけど、うまくなかなか喋れませんが、私の経験の中で、本当に困った人は「困った」って言えないっていうのがすごくよくわかるんです。本当に困った人を目の前にして、周りの人たちと一緒にその経緯を見守りながら、仲間と共に解決していったということが一つずつ私の中でエネルギーになっています。

近々にはこんなことがありました。学校の先生から「うちの生徒さん、夜間中学に時々行ってはる



みたいやけど、ご飯食べてないみたいで、職員がそうめん持って何回か走ってるんやけど、家の中で何が起こってるかわからへん、一度一緒に解決をしてもらえませんか」というふうにSOSが入りました。この生徒さんの場合は、中国のお母さんと日本人のお父さんとの間に生まれた日本国籍の子どもさんなんですね。ずっとお母さんと中国で一緒に過ごしてきたので、日本語全くわからない。そして数年前にお母さんと一緒に日本に入国して、お父さんと一緒に暮らしはじめた。お母さんが唯一中国語を話すので、その子どもさんと会話ができる。お父さんは日本人で中国語を全く解さない。しかもすごく高齢で病気がちであって、ずっと寝ているというのが情報として入ってきました。そしてそこへまず私どものスタッフさん何名かで一緒に行って中国語を話せるスタッフさんが懸命に話をして、そして今何に困っているのか、お父さんがどうしているのかということ聞き取りして、そのお父さんを役場につないで、そして生活保護を申請するところまでこぎつけました。そしてその子どもさんにご飯を届けたいためにフードバンクさんにつながった。私はつい先日ぐらいまでは個人間でつながれると思ってたんやけど、奈良県の場合は、フードバンクさんにつながるには、団体としてつながらないといけないということがわかって、「西和に夜間中学をつくる会」がフードバンクさんにつながって、そしてそのフードバンクさんから食料品をいただけるようになって、そこのご家庭に届けられるようになった。そして月に1回、生活保護を受け取れるようになって、生活は安定するようになった。お子さんも食べれる、食べれへんってところは脱したけれども、その子どもさん、中学3年生やったんやけども、進学をどうするかという問題になって、その進路のお手伝いも自主夜間中学でさせていただいて、そして県立高校に通えるようになっていきます。でも今もなかなか学校に行けなくて、ちょっと困っているんやけれども、それもスタッフがサポートしながら自主夜間中学には、ママと一緒に通う状態はキープしています。

こういう営みが私にとっては一つ頑張れるエネルギー、次につなげるエネルギーになっています。

加藤 佳代

ありがとうございました。本当に本当に困った人は、困ったって言えないっていうのはよくわかります。山本さん、これまでも非常に困難なケースを本当に一つ一つ丁寧に解きほぐしながら解決に向けて、その積み重ねが今のエネルギーになっているというお話でした。

では最後になりますが、今日ご登壇した皆さんから、今日このシンポジウムに参加した感想を一言ずつお聞かせいただけますでしょうか。お願いいたします。

工藤 慶一

今日ここで話をさせていただいて、なおかつ、今日の会の進め方のおかげもあって、皆様と話をした内容が私の中にも入ってきました。私はありがたい気持ちでいっぱいです。勉強させていただきました。ありがとうございます。

ありがとうございました。私も、加藤さん、松島さん、それから田巻先生、事前に十分すぎるほど十分なやりとりで、この会の準備をしてきました。特に司会のお2人は、誰よりも早くここに入って、この会場の設置から何から、今までのご経験をもとにね。すごく参加しやすい並び方ですよ。

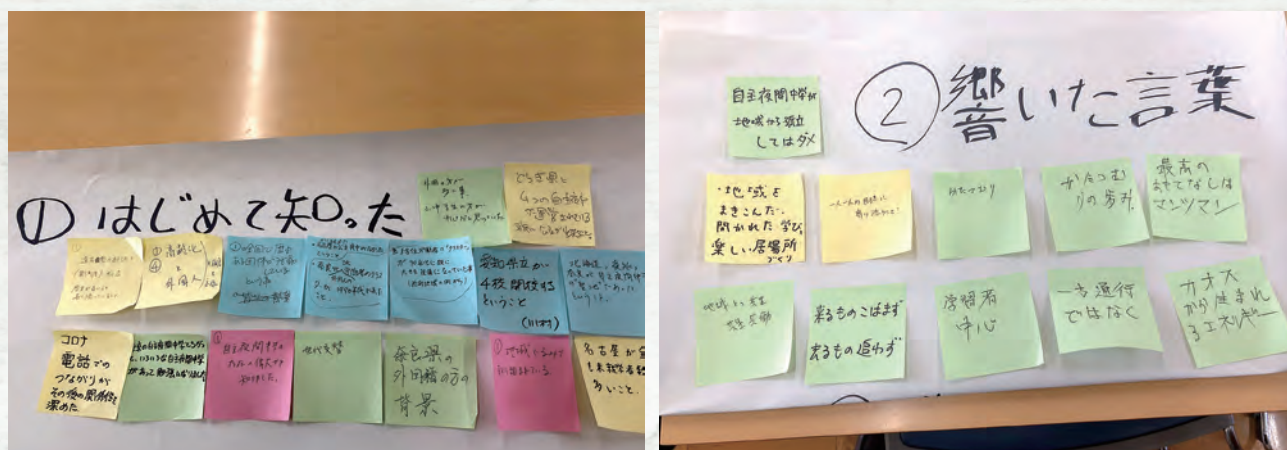
本当にね、目からうろこでした。ありがとうございました。とても楽しかったです。

今日は、とても素晴らしい進行をしていただきました。

私は事前の打ち合わせにも参加できませんでしたし、ウェブも使うことができませんし、いまだにまだワープロしか打てないという人なんですけれども、ここへ寄せていただいたこと、心から感謝しています。

ありがとうございました。

では今日のお三方にもう一度拍手お願いいたします。どうもありがとうございました。一旦これでシンポジウムを終了いたします。このあと交流会の準備にはいり、それから交流会を開催いたします。



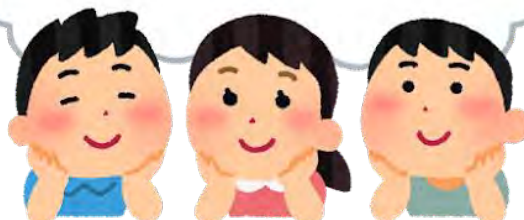
自主夜間中学 なになにクイズ

自主夜間中学
ってなんだろう？



質問 1

自主夜間中学って、
何のためにあるの？



- ・ いろいろな人の「学びたい！」という思いにこたえる場所
- ・ 中学までの学習が十分にできなかった人や、さまざまな背景を持つ人が学べる場所
- ・ 中学校の教科だけではなく、小学校の教科や日本語も学べる場所





つまり、「学びたい！」って気持ちがある人が
「一人ひとりにあった勉強ができるところ」
ってことですね！

質問 2

公立夜間中学と、
自主夜間中学って、
どう違うの？



公立夜間中学



- ・自治体が運営
- ・週5日間授業がある
- ・昼間の授業を同じ教科を学ぶ
- ・中学卒業資格がとれる



自主夜間中学



- ・ 市民が作った学びの場
- ・ 参加者のニーズにあわせカリキュラムが組める
- ・ 自分に必要な学びを選べる

- ・ 週五日通うのが難しい人や、
中学の教科以外を学びたい人にメリット

つまり、公立夜間中学、自主夜間中学が力をあわせると、
多様な人の学びの可能性が広がって、
みんなが笑顔になるって事ですね！

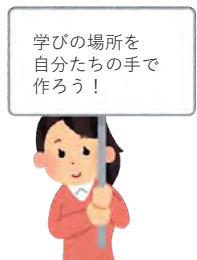


質問 3

ところで、
自主夜間中学って、
いつから始まったの？



- ・ 1970年代の奈良県がはじまり
- ・ 夜食でうどんを提供したので、「うどん学校」と呼ばれた
- ・ その後、全国各地で「学びたい人を支えよう！」と立ち上がった人たちがいた



自主夜間中学のルーツでもある、
遠友夜学校について
作った人…新渡戸稲造



- ・ 明治から昭和にかけて活躍した教育者・思想家
- ・ 世界のベストセラー本『武士道』を書き、日本人の生き方や心を世界に伝えた人物
- ・ 日本と世界をつなぎ、平和と教育を大切にした人物



明治時代の札幌にあった夜の学校。

昼間に働いていて普通の学校へ通えない子どもや若者のために開かれ、読み書きや計算を教えた。

お金がなくても、身分に関係なく、だれでも学べる場所として、教育の大切さと人を思いやる心を実現した取り組みだった。





遠友夜学校閉校までの50年間に、この学校で学んだものは約5千人を超える

このあと、シンポジウムでご登壇いただく
工藤慶一さんは、1990年に、札幌遠友塾自主夜間中
学を、仲間と共に開校された方です。

**学びたい人に、
平等に教育の光を届けたい**

新渡戸稲造の思いは、今尚引き継がれているのです。

工藤さんのお話をお楽しみに！



質問4



公立夜間中学、自主夜間中学
は全国にどのくらいあるの？



公立夜間中学
全国41都道府県・指定都市
に62校

これからもどんどん増やしていこう！



栃木県初 公立夜間中学
「栃木県立とちぎ学びの夢学園」
2026年春・開校！



名前はいろいろだけれど、活動内
容がほぼ同じ団体を含めると、自
主夜間中学は全国で60-70ある。

栃木県内には4校

とちぎ自主夜間中学宇都宮校
多様な学び教室
おやま自主夜間中学
とちぎ蔵の街自主夜間中学



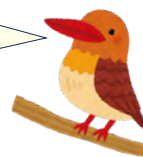
質問5

とちぎ自主夜間中学では
どんな人が学びに来るの？



- ・ 中学の教科の学び直しをする社会人
- ・ 不登校の小中学生
- ・ 高校進学を目指す学齢超過の外国人
- ・ 生活のための日本語を学ぶ外国人学習者
- ・ 学校の学習に困難を抱える小中学生
- ・ 学習だけではなく、国籍も年齢も多様な人との交流を希望する人たち

本当に色々な人の
学びの場なんだなあ



背景はひとりひとり違うけれど、
「勉強したい！」という気持ちがパスポート！



自主夜間中学は地域全体で学び直しを支える場

学習を支える人

運営や
企画を担う人

学習者を支える人

地域とつなげる人

ご協力いただいている皆様には、心より御礼申し上げます。
引き続き力を貸してください！
そして、「自主夜間中学の活動に、関わってみたいな」「何かしら
の形で参加したいな」という方は、どうぞ、よろしくお願いします。
ともに、栃木の学びの場を育て行きましょう！



よろしくお願いします



シンポジウム
「自主夜間中学は何を目指すのか」
「栃木の今！」 2025.9.28(日)

報告者:とちぎに夜間中学をつくり育てる会
事務局長 佐々木一隆

本日の報告内容

「栃木の今！」

- 本日の報告内容
- 集合写真「とちぎ蔵の街自主夜間中学」開校記念時 (2024.10.6)
- 公立夜間中学「栃木県立とちぎ学びの夢学園」
- 自主夜間中学4校と「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」
 - 自主夜間中学の意義と目標
 - 自主夜間中学の楽しさ
 - 自主夜間中学の課題
- 補足資料
 - 1 栃木県立とちぎ学びの夢学園
 - 2 自己紹介





公立夜間中学

全国41都道府県・指定都市
に62校

これからもどんどん増やしていこう！



栃木県初 公立夜間中学
「**栃木県立とちぎ学びの夢学園**」
2026年春・開校！



自主夜間中学

名前はいろいろだけれど、活動内容がほぼ同じ団体を含めると、自主夜間中学は全国で60-70ある。

栃木県内には4校（とちぎに夜間中学をつくり育てる会が母体）

とちぎ自主夜間中学宇都宮校（2021年10月）

多様な学び教室（2023年4月）

おやま自主夜間中学（2021年10月）

とちぎ蔵の街自主夜間中学（2024年10月）



自主夜間中学の意義と目標

○ 自主夜間中学は何を目指すのか（シンポジウムや意見交換のテーマ）

いろいろな人の「学びたい！」という思いにこたえる場所、無料、「だれでも、いつからでも、いつまでも」、学習者にもパートナー/応援スタッフにも「多様な学び」「交流」「居場所」という三つの場がある。

○ **栃木県立とちぎ学びの夢学園との連携からみる存在意義：**
自主と公立の交流、夢学園への進学・在校時・卒業後の応援など

○ **自主夜間中学は、限られた時間での活動だが、「なくてはならない場」として存在し続ける。**重要な要素：学習、喜び、楽しさ、共感、連帯「楽しく学べる場をつくっていく」

自主夜間中学の楽しさ

- ◎多様な学習者が集う多様な学びの場 [交流の場、居場所としても]
- ◎学びの本質・原点がある [学習者に寄り添い応援し、引き出す] 生きる力
 - 宇都宮校（夜の部 日曜18-20時、昼の部 金曜14-16時）：東・東南・南アジア、アフリカ、アメリカ、日本等の小学生、中高生、大学生・大学院生、社会人；外国人・日本人親子 [日本語、教科、試験対策、会話、不登校、学び直し]；パートナーの集い：初級日本語、不登校等；学習者とパートナーの交流会
 - 多様な学び教室（水曜 14:20-19:10）：宇都宮校と同様に外国人と日本人の小学生、中高生、研究生や大学院生、社会人；外国人・日本人親子；学習者と応援スタッフによる参加型とんかつ交流会など；高校・大学(院)進学への応援も
 - とちぎ蔵の街校（日曜 9:30-12:00）：外国籍の小学生、中高生、社会人が圧倒的多数。日本国籍は少数。全体ミーティングに歌や紙芝居など交流の場がある。栃木市国際交流協会HP に毎回開催報告 <https://www.tic-tochigi.jp> 教室外活動も

自主夜間中学の課題

- 系統的学習の難しさ（複数の自主夜間中学等にまたがる場合もある）日本語と教科の学習 [文化とのかかわりにも配慮]、日本語初級教材の情報共有、教科書か関連問題集か、中学教科単語帳や辞典(含 漢字や和英)の活用など
- 各学習者の目標を立てて、継続的に応援する
- 学習者と応援スタッフのマッチングや定着度
- 場所の確保と使用料など
- 県立とちぎ学びの夢学園とどう連携するか

補足資料1 栃木県立とちぎ学びの夢学園

入学希望者説明会資料 参考（2025年7月 栃木県教育委員会 義務教育課）

概要：1～3年 各学年35人まで募集、義務教育の内容を勉強したい15歳以上、授業（40分）1日4回（17:10～20:30）、中学校（9教科など）の学習内容を勉強 [一人一人の目標に合わせて、5つのコースを提供]

○5コースと入学から卒業までの年次進行（例） **個別面談を通して決定**

	1年生	2年生	3年生
チャレンジ（中3程度）			A, B, C, D, E
ジャンプ（中2程度）		A, D	E
ステップ（中1程度）	A	EE	注1 A～E: 各生徒を表す
ホップ（小学校＋基礎的学習）	EE		注2 EE: Eが同一学年で
にほんご（日本語基礎＋各教科）		B	当該コースを2年継続

補足資料2 自己紹介

- ・専門 英語学・言語学：生成文法、構造と機能、動的な文法理論、日英語比較など
- ・主な職歴 宇都宮大学 教養部 国際学部・国際学研究科 地域創生科学研究科
- ・定年退職後 宇都宮大学名誉教授 放送大学栃木学習センター客員教授
- ・とちぎに夜間中学をつくり育てる会 事務局長
- ・特定非営利活動法人とちぎ自主夜間中学 宇都宮校 パートナー、運営委員、理事
- ・多様な学び教室（宇都宮大学内）応援スタッフ [コーディネーター]
- ・とちぎ蔵の街自主夜間中学（栃木市国際交流協会主催）応援スタッフ

地域共生社会を支える

自主夜間中学はじめての一步教室の役割

愛知夜間中学を語る会代表
公立夜間中学の設置及び充実に求める
愛知連絡協議会共同代表
笹山悦子

「自主夜間中学」という名称

ボランティアによる

夜間中学に準じた基礎教育の学習内容中心
生きるために 自分にとって必要な勉強ができるところ
国籍や年齢にかかわらず誰でも来てよいところ

学歴にはなりません

時世を反映する「社会課題」が存在

一步教室がやっていること

*ボランティアによる

「読み書きリテラシー」中心の学習支援



*学習者のニーズにあわせた寄り添い型支援

➡地域の課題（貧困・DV・差別・いじめ）浮上！

➡多機関の専門家とのコラボ（勉強会を中心に）

*地域住民と孤立しがちな学習者をつなぎます

*学習者の「得意」を育てて、肯定感・効力感向上へ

一步教室に来ている人々

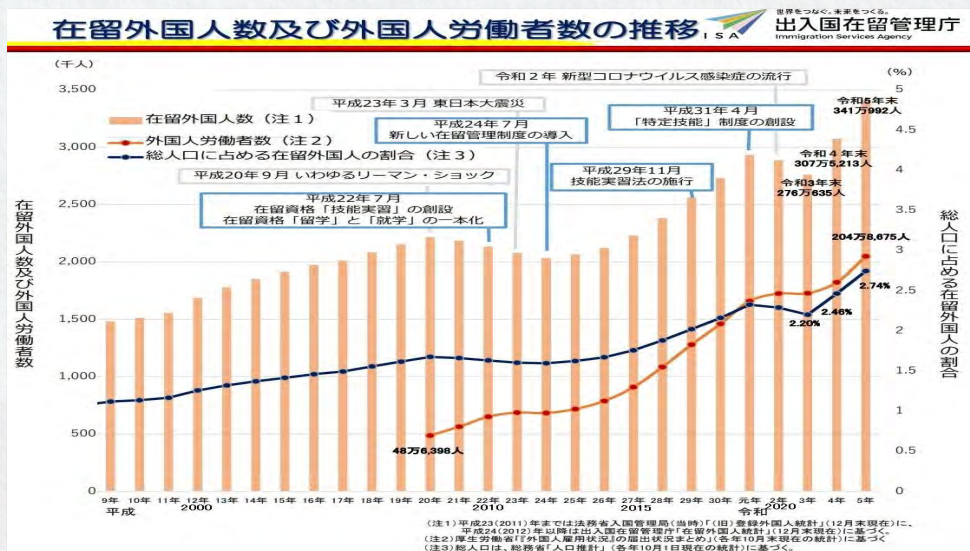
日本語を勉強したい外国人労働者の家族

→子供連れの母親・授業が分からない小中高校生

日本人の高齢者も！

→義務教育未修了者

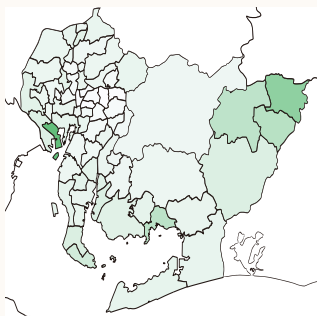
現在300名超登録在籍



2020年国勢調査結果「愛知県データ一覧表」 (基礎教育保障学会編『基礎教育保障学研究別冊第1号 愛知県レポート』より)

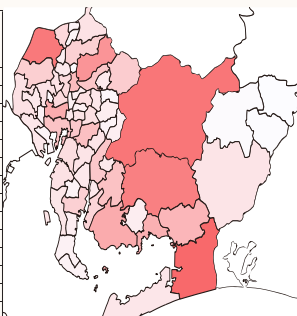
義務教育未修了率の高い15市町村と色分け地図

No	市町村名	義務教育未修了率
1	飛島村	4.21%
2	豊根村	3.09%
3	東栄町	2.03%
4	蒲郡市	1.92%
5	設楽町	1.86%
6	南知多町	1.39%
7	美浜町	1.13%
8	碧南市	1.12%
9	新城市	1.11%
10	弥富市	1.04%
11	高浜市	0.98%
12	西尾市	0.98%
13	愛西市	0.92%
14	大口町	0.92%
15	岡久比町	0.90%



義務教育未修了者の多い15市町村と色分け地図

No	市町村名	義務教育未修了者数
1	名古屋	10,568
2	豊橋市	2,510
3	豊田市	2,293
4	一宮市	2,252
5	岡崎市	2,137
6	春日井市	1,787
7	西尾市	1,408
8	蒲郡市	1,325
9	豊川市	1,212
10	安城市	1,019
11	刈谷市	911
12	瀬戸市	841
13	稲沢市	802
14	半田市	779
15	小牧市	777



愛知県立夜間中学校:とよはし・とよた・こまき・いちのみや
名古屋市立夜間中学校:なごやか夜間中学校

-
- ・民間支援団体の代表が「コミュニティサポーター（学校評議員）」として入る
 - ・一歩教室のメンバーを中心とする市民サポーター約30名が授業支援に入るなど連携・協働を進めている
 - ・生徒さんたちへのキャリア支援の取り組みにもかかわっている



イシアンさんの英会話教室



あなたの「得意」をみんなのものに！！

トイさんの おもちゃの広場



地域防災リーダーさんたちの防災教室



ハザードマップで 危険箇所確認！！



国籍バラバラなのに、同じところで笑いが起こる！！

絵本の読み聞かせ



日本語の勉強を入口に、子育て情報GET！

ママたちも勉強、がんばってます



ごちゃまぜ・カオスから
生まれるエネルギー



キスマット君のダンス教室

初代 親子英会話教室

私たちが目指していること

- * 公立夜間中学校への入学を迷っている人 諦めてしまった人 サポートが必要な様々な事情を抱えた人を**地域で応援**します
- * **地域の課題**を幅広く共有し、解決に向けて縦割りの専門分野を超えて連携・協働します
- * ともに生きるために、ともに学ぶ



対面教室は2か所ですが仲間は網の目

* 名北福祉会上飯田東町交流センター **(東町教室)** 朝10時～17時

* 大曾根駅近く「松田ビル」3F **(大曾根草の根教室)** 昼13時～18時



防災リーダーさんによる
「防災ウォーキング」



おもちゃで日本語
「おもちゃの広場」



みんなでランチ



作文できたよ！
見守り・見守られる

WAM助成金団体ですが
ご寄付大歓迎
賛助会員も直接支援会員も
大募集中！

「はじめの一步教室」を
もっと知りたい方は

高橋龍介著

「はじめの一步教室やってるよ！」
(同時代社)をぜひどうぞ！！



「夜間中学」がわかる 3本の映画・DVD

***その1. 「こんばんはⅡ」**

自主夜間中学のドキュメンタリーDVD
なぜ学びたいか、学びの原点がわかります

***その2. 「35年目のラブレター」**

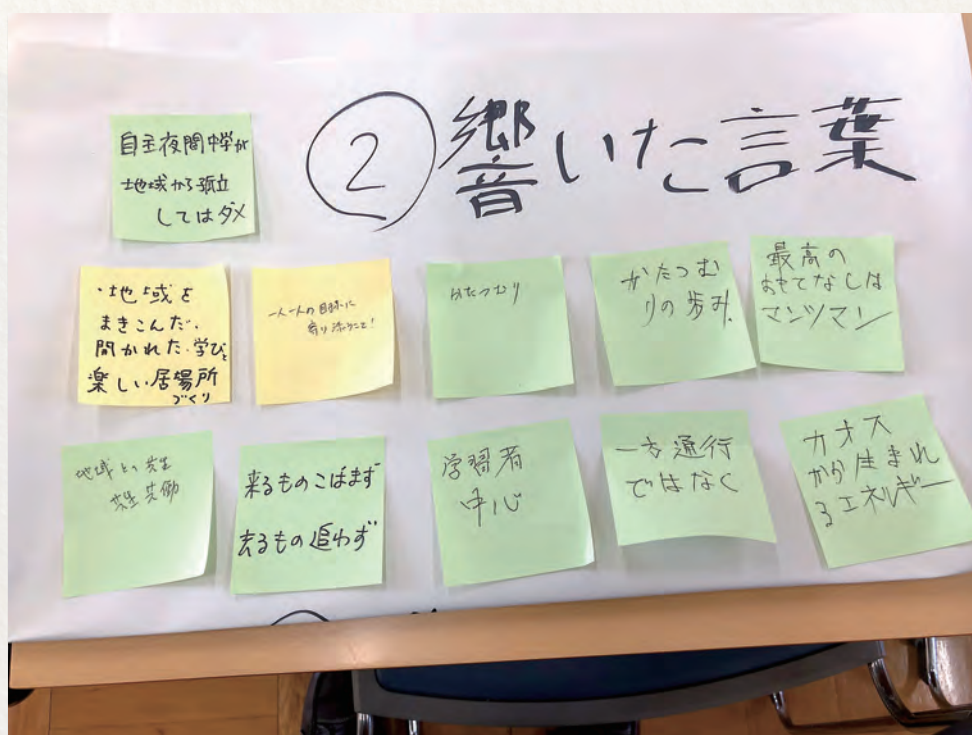
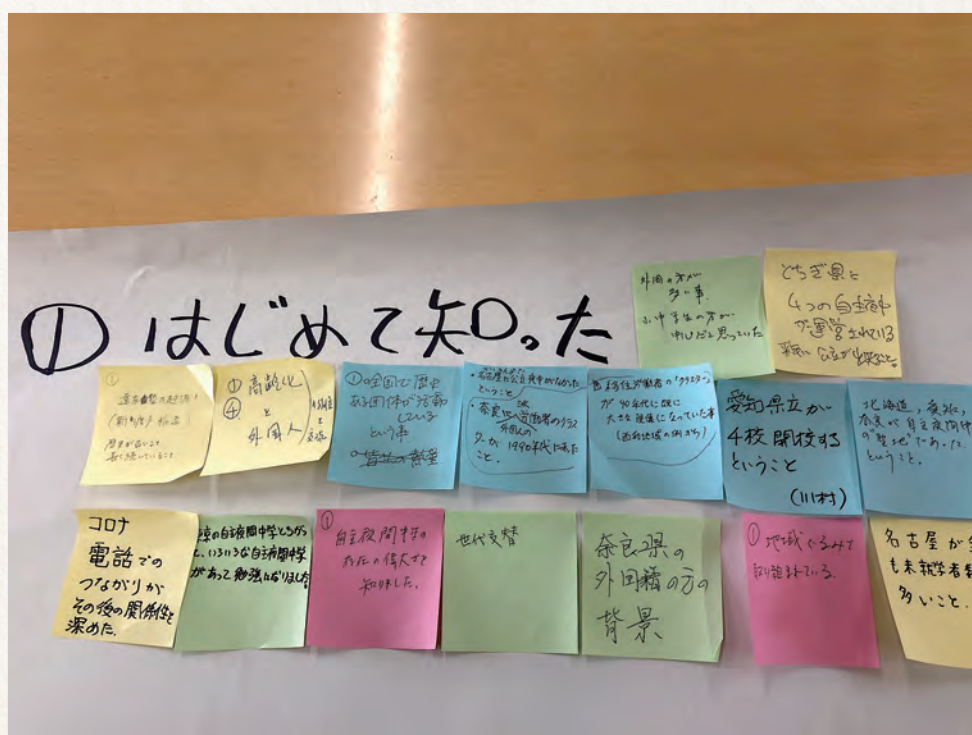
鶴瓶さんと原田知世さん、安田顕さんにご出演
夜間中学生「西畑 保さん」の実話をもとにした
「夜間中学」で学ぶ人たちへのエール



***その3. 「新渡戸の夢」**

夜間学校設立に尽力した新渡戸稲造の夢を受け継ぐ現代の人々を追った
ドキュメンタリー映画です

グループトーク



② 郷音いた言葉

地域から集まるとは
 いかに大切なこと
 (地域を大事にする)

こちまぜ
 カオス から
 新しいエネルギー
 が生まれる。

学習者 にも
 交換者 にもなる！
 (学習者と交換者
 が入り交ざる場がある)

困った時に
 声をあげよう
 共に学びたい
 生きよう

共に生きるために
 共に学ぶ

学習者は
 ルールに従う存在
 ではなく
 一人の人間として
 考え、選べ、生きたい

② 共に学び
 共に生きる

共に学び
 共に生きる

② 相互の立場に立つ

来るのは
 こぼす可
 去るものは
 送る可
 (川井)

② 郷音いた言葉

・遠くを
 ひとりの生徒のためにクラス
 のまどまで交換でき
 たこと

地域共生社会
 と
 変える 地域の
 こと

こちまぜ・カオス
 から生まれるエネルギー！

自主夜中
 防災学習

② 皆の熱意
 量
 共に学ぶ(お互いの
 こと)

自主夜間中学の
 歩みの実証
 (文字情報だけでは
 伝わらなかった)

② 学習者と交換者が
 入れ替わる
 カオスから生まれる
 エネルギー

② こちまぜ
 カオス
 の良し

② 果樹園のピンチ
 友がピンチの時は
 皆が助けに行く
 命の大切さ

② 学習者よりも
 大事な失生。
 学習者から学ぶ
 大切なこと

② 困った時に目の前
 (1人時) 寄り添い
 仲間と共に生きて
 いくこと

② 胸に響いた、共感した

共に生き
共に学ぶ

西和地区に
空自地区
をつくらない。

② 「一歩教室」
ともに学び
ともに生きる

② 胸に 響いたのは
「カオス から
生まれる エネルギー」
「助けて」って 言える
関係づくりを！

③ なぜ？ 知りたい

② カオスを
まとめる
コツとは？

③ 交換者の方々の
エネルギー

俵給・需要の変動で
外国人は多すぎ
人種が変わるかも？
その対処は？

資金を
増大する

スタッフは
どのように
集めるか。

自主夜間中学の
資金
活動資金は？

どこまで
かかわれる？
ボランティア？

どの世代交代が
必要だけれど
どうすれば
いいだろう？

③ なぜ? 知りたい

自主夜中の運営
はどんな感じの
運営されているのか?

愛知県の自主
夜中には、どうい
う連携団体がある
のか? (川村)

自主夜中の
母語と大切に
する取組の
ことも知りたい

③ 財源は
どう確保しているのか?
(名産)

山手町の
「若者の集い」を通じて
くらしが「あふ」るという
言葉、みなでんが
日頃、自主夜中が運営され
ていることはどんなことが
ありそうです?

③ スタッフの拡大

登山隊 ④
社会福祉協議会
にのめり地域との
関係がどうなり
(厚労省「文部省」)
にのめりもういっおき
していきなり?

④ やってみたい

地域との
防災教室

自治会、地域で
新しい場所をつくる?

松本市民や
地域への
同知活動
を広げる

とにのめり
現場にきて
学習者と接する

④ 多宗教を
無理なく
共存する
つまり文化、風習:

④ 同国の人々の
国、いることに
気づく、声をあげる

地域の一翼として
できることを探す
い(ない)。

④ 自主夜中は
公立との連携
在校生や卒業後
の応援者となる
あじはないか。

④ みんなで料理
いっしょに食べる。
おいしい気持ちを
共有したい。

④ 西和 自主夜間
ゼミ 和
かたつむりのよきあひ
前に進む (前を向いて
あること)
ゆくりとあゆむ。
何かあきらめずにいる。

・地域とのつながり
を作る活動に
加わりたい。

別の問題も目を凝ら
すってかろう!
(北海道問題や韓国
(た北海道の例から))

交流会（16-17 時）

挨拶

八星真里子（JICA 筑波 連携推進課）

秋元伸一（夜間中学校と教育を語る会）

- 1 写真で見る「蔵の街校」の1年 田巻松雄



- 2 紙芝居「ほねほねマン」 橋本まり



- 3 日本舞踊「さくら さくら」 藤間卯京（日本舞踊藤間流師範）

さくら さくら のやまも さとも みわたす かぎり
かすみか くもか あさひに におう
さくら さくら はなざかり

さくら さくら やよいの そらは みわたす かぎり
かすみか くもか においぞ いずる
いざや いざや みにゆかん

- 4 みんなで歌おう！「あなたへのおくりもの」 戸井田公子／田巻松雄



挨拶 青木千津子（栃木市教育委員会 教育長）

「写真で綴る『蔵の街校』の1年」

写真でつづる「蔵の街校」
(2024年10月6日開校)の1年

2025年9月28日

くらのまち あなたに この歌を届けよう
広い世界でたったひとつの
私の好きなくらのまち

物語の始まり！ネパール単語帳発行記念会
(2024年8月25日)





2回目から開催報告を栃木市国際交流協会HPで公開
(2024年10月27日～)



2回目の振り返りのミーティング



シンハラ語単語帳発行記念会 (2024年12月22日)



なぜか！ 高校3年生を歌う！



2人の翻訳者と一緒に



オープンキャンパス(2025年3月30日)

総合司会 稲田崇治 (栃本市国際交流協会事務局長)



挨拶 田巻松雄 (とちぎに夜間中学をつくり育てる会 代表)
大川秀子 (栃本市長)
青木千津子 (栃本市教育委員会教育長)

I 部 説明会 (学びたい人、学習支援ボランティアをしたい方向け) 司会 佐々木一

「こんばんはⅡ」上映 (37分)

～公立・自主夜間中学を描いたドキュメンタリー映画～

全体説明・個別相談 (45分)

II 部 交流会 司会 カバリエロ優子

「化学実験模擬授業」 (30分)

まごめ博士と獨協医科大学医学部生

音楽で交流 (ギター・アコーディオン・バイオリン) (30分)



オープンキャンパス(2025年3月)



オープンキャンパス(2)



オープンキャンパス(3)



「こんばんは」上映会(2025年9月13日)



第31回(2025年9月21日)



紳士と幼子は何を語っているのか

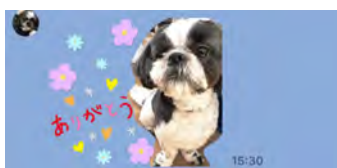


速報！！そして、物語は続く！！

1 運営委員会発足(栃木市国際交流協会、とちぎに夜間中学をつくり育てる会、栃木県立まなびの夢学園、栃木市教育委員会・生涯学習課、外国人代表住民)

2 2025世界の人びとのためのJICA基金活用事業採択
『中学教科単語帳(ウルドゥー語)』発行へ

3 「蔵の街校」2025年11月より毎週開催(日曜日午前中)











කහිමය පාසල් විෂය සඳහා වන වචන මාලා පොත

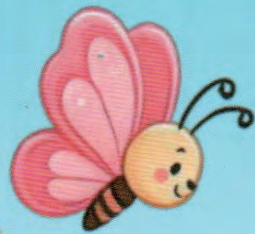
සජිතය, ඉංග්‍රීසි, භූගෝල විද්‍යාව, විද්‍යාව (පළමු කාණ්ඩය/දෙවන කාණ්ඩය)

(ජපන් භාෂාව ⇒ සිංහල භාෂාව)

日本語⇒シンハラ語

数学・英語・地理・理科(一分野/二分野)

中学教科単語帳



やかんちゅうがく そだ かい
とちぎに夜間中学をつくり育てる会

た よう まな きょうしつ
多様な学び教室

だれでも いつからでも いつまでも

しょうちゅうがっこう き そ て き がくしゅう に ほん ご がくしゅう
小中学校の基礎的な学習や日本語の学習など

無 料

場所：宇都宮大学 峰キャンパス 5号館2F 5C21教室
日時：毎週水曜日 14：20～19:10（部分参加も大丈夫です）

共催：「宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター多様な学び研究会」
「とちぎに夜間中学をつくり育てる会」

*** 問い合わせ先 ***

とちぎに夜間中学をつくり育てる会 田巻 松雄

電話: 090-7731-9345

E-mail: tochigiyakanchugaku@gmail.com



とちぎ蔵の街自主夜間中学 10月～12月の日程

11月から毎週開催！！

だれでも いつからでも いつまでも

しょうちゅうがっこう き そ て き がくしゅう にほんご がくしゅう
小中学校の基礎的な学習や日本語の学習など

場所：きららの杜とちぎ蔵の街楽習館

日時：日曜日 9：30～12:00（部分参加も大丈夫です）

2025年10月5日、19日、26日

11月2日、9日、16日、23日、30日

12月7日、14日、21日、28日

無 料

主催：栃木市国際交流協会

協力：とちぎに夜間中学をつくり育てる会

＊問い合わせ先＊

とちぎに夜間中学をつくり育てる会 田巻 松雄

電話: 090-7731-9345

E-mail: tochigiyakanchugaku@gmail.com





とちぎ蔵の街自主夜間中学の開催報告をHPで公開中

とちぎ蔵の街自主夜間中学の開催報告を栃木市国際交流協会のHPで公開しています。蔵の街校は昨年10月6日に開校し、シンポジウムが開催された9月28日に32回目を迎えました。基本的に、全体、小学生クラス、中高生クラス、社会人クラスに分けて、その日の様子を報告しています。スタッフの様々な心情も綴られています。時には1万字を越える大作の日もあります!!ここでは、ご参考までに、第32回(2025年9月28日)開催の全体報告を掲載しました。是非是非HPをご覧ください。

第32回(2025年9月28日)開催報告

〈全体報告〉

朝のミーティングで「切手のないおくりもの」を歌う。今回は2節。「わたしからあなたへ この歌をとどけよう 広い世界にたった一人の わたしのすきなあなたへ」、「知り合えたあなたへ この歌をとどけよう 今後よろしくお願ひします 名刺代わりにこの歌を」。朝から元気が出た!!

本日午後のシンポジウムに参加する工藤慶一さんと秋元伸一さんが朝から駆けつけてくれました。工藤さんの第一声、「栃木市は遠かった!」。宇都宮に来る場合は、新千歳から仙台空港まで来て、そこから新幹線1本。栃木市に来る場合は、羽田まで来て、そこからが遠かったと。大変お疲れさまでした!!でも、初めてくる栃木市の街並みには大変興味を持った様子でした。2人に簡単な自己紹介をお願いしました。外国人学習者が大半なので、札幌はどこにあるか知っていますか?と聞いたところ、最前列にいたフィリピンのお母さんから「北海道!」と大きな声が帰ってきました。13日(土)の上映会に続き参加してくれた仲間ちゃん。「もう何度も来ているので話すことは無い」と言っていたが、たまに来る学習者もいるのでと無理やりお願いしました…仲間ちゃんとは昨年7月に宇都宮で開催したシンポジウムで初めて話したのですが(集会などで何度か姿はみかけていた)、この1年、宇都宮にも栃木にも何度も来てくれて、感謝です。

午前中の学習課活動には、JICA筑波の関係者も数名参加してくれて、朝からにぎやかな雰囲気となりました。振り返りのミーティングには、横浜と茅ヶ崎から加藤佳代さんと松島恵利子さんが駆けつけてくれました。本日初めて参加してくれた方の感想、「ここにはすごいエネルギーがある」。今回何回目かの参加者の感想、「毎回、会に参加するたびに元気をいただきます」。これもまた嬉しいですね。

速報です!!とちぎ蔵の街自主夜間中学(今後、蔵の街校と呼びます)は、昨年10月から今年の3月までは月2回開催、4月から9月まで月3開催でしたが、11月から毎週開催することとしました。日曜日が5回ある時は5回全部開講します。時間帯は9時半から12時までで変わりません。スタッフが毎週欠かさず参加することは厳しい面があるので、常時10-15名のスタッフが参加できるようにローテーションを組んでいきます。



学習応援の方法について協議しています。基本マンツーマン形式での応援をしてきましたが、「一人で応援するのは難しいので、複数のスタッフで協議しながら進めたい」等の声があがり、マンツーマン形式をベースとしながらも、複数のスタッフが複数の学習者を担当するグループ別応援体制を試行していきます。

少し前にJICA筑波でインターンをしている学生から『中学教科単語帳』発行や自主夜間中学の活動について取材を受けました。昨日記事が送られてきたのですが、上手くまとめられていて感心しました。その一節、

自主夜間中学は、マンツーマンで一人一人の学習ニーズに寄り添って応援するというスタイルを大事にしています。マンツーマンの面白いところは、その人のことが良くわかることです。「何につまづいているのかな?」というところを掘り下げていくとその人のことが理解できるし、本人もできなかった問題が分かってくると面白くなってくるんですよ。できなかったことをできるようにしたり、なぜできないかを一緒に考えたりするので、「教える」というよりも、「応援する」「一緒に楽しんでやる」というような雰囲気があります。

自分が語ったことなのですが、改めて「そうか」と思ってしまいました・・

本日午後に「自主夜間中学は何を目指すのか」をテーマとするシンポジウムが開催されました。このシンポについては、早急に記録ファイルを作成します。乞うご期待!!(田巻松雄)



とちぎに夜間中学をつくり育てる会
栃木市国際交流協会

共 催

シンポジウム「自主夜間中学は何を目指すのか」(2025年9月28日)

2025年10月